

令和2年度

小金井市教育委員会の権限に属する事務の  
管理及び執行の状況の点検及び評価報告書

(評価対象：令和元年度事業)

小金井市教育委員会

# はじめに

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の中で「教育委員会は、毎年、教育委員会における活動状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。」と定められています。また、同条第2項では、「点検及び評価を行うに当たっては、学識経験者の知見の活用を図るもの」とされているところです。

小金井市教育委員会では、平成20年1月に定めた教育目標及び平成24年2月に策定した基本方針の実現に向け、「第2次明日の小金井教育プラン」及び「第3次小金井市生涯学習推進計画」に基づいて推進する「教育施策」に係る主な事業（66事業）について「点検及び評価表」を作成することとしています。

令和2年度（令和元年度事業評価）については、3人の学識経験者からいただいた貴重なご意見を踏まえ、以下のとおり評価報告書を作成しました。

小金井市教育委員会

# 目 次

小金井市教育委員会の教育目標	1
小金井市教育委員会の基本方針	2
令和元年度教育施策	3
教育目標・基本方針・各計画・教育施策の関係	9
令和2年度 点検及び評価対象事業	10
令和2年度 評価基準	11
点検及び評価表（学校教育）	12
1 概要	12
2 評価結果総括	12
3 評価表	13
点検及び評価表（生涯学習）	38
1 概要	38
2 評価結果総括	38
3 評価表	39
令和2年度 点検及び評価に係る学識経験者の意見	56
参考資料	61
1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律	
2 小金井市教育委員会の事務の管理及び執行の状況について の点検及び評価の実施に関する要綱	
3 令和元年度教育委員会運営状況	
4 令和元年度小金井市立小・中学校 学校行事・連合行事等日程表	

# 小金井市教育委員会の教育目標

小金井市教育委員会は、平成31年第2回小金井市教育委員会定例会において、以下の教育目標を可決しています。

教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われるべきものである。

また、教育には、一人一人の子供が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることが求められている。

小金井市教育委員会は、このような考え方に立って、「みどりが萌える・子どもが育つ・絆を結ぶ小金井市」の実現を目指し、以下の「教育目標」に基づき、積極的に教育行政を推進していく。

小金井市教育委員会は、子供たちが幅広い知識と教養を身に付けるとともに、道徳心にあふれ、健康で人間性豊かに成長することを願う

- 自他の生命と人格を尊重し、礼儀正しく思いやりのある人
- 社会のルールを身に付け、社会貢献に努める人
- 自ら学び考え続ける、個性と創造力豊かな人

の育成に向けた教育を推進する。

また、すべての市民が生涯を通じ、あらゆる場で学び、支え合い、互いに高め合うことを目指していく。

そして、家庭、学校及び地域のそれぞれが役割と責任を果たしながら、相互の連携と協力による教育を推進する。

(平成31年2月12日 小金井市教育委員会決定)

# 小金井市教育委員会の基本方針

## 【基本方針1 「人権尊重の精神」と「社会貢献の精神」の育成】

すべての子供たちが、人権尊重の理念を正しく理解するとともに、思いやりの心や社会生活の基本的ルールを身に付け、社会に貢献しようとする精神を育むことが求められている。

このため、人権教育及び心の教育を充実するとともに、権利と義務、自由と責任についての認識を深めさせ、公共心をもち自立した個人を育てる教育を推進する。

## 【基本方針2 「個性」と「創造力」の伸長】

子供たち一人一人が、国際社会に生き社会の変化に対応できるよう、自分のよさや可能性を認識できる自己肯定感を育み、持続可能な社会の創り手となることが求められている。

このため、子供たちの個性と創造力を伸ばす教育を重視するとともに、国際社会に生きる日本人を育成する教育を推進する。

## 【基本方針3 「信頼される学校づくり」と「確かな学力」の確立】

子供たちには、基礎的・基本的な知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力、人間性等の涵養が求められている。

このため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるとともに、保護者や地域に信頼される魅力ある学校づくりを目指した学校経営を支援する。

## 【基本方針4 「生涯学習」と「文化・スポーツ」の振興】

市民一人一人が、生涯にわたって学び、その成果を社会に還元できるようにするとともに、次代を担う子供たちの健やかな成長を社会全体で支えることが求められている。

このため、学校・家庭・地域の教育力を高め、その連携が進むよう支援するとともに、市民が生涯を通じて、自ら学び、文化・スポーツに親しみ、社会参加できる機会の充実を図る。

(平成31年2月12日 小金井市教育委員会決定)

# 令和元年度教育施策

小金井市教育委員会では、「教育目標」及び「基本方針」を実現するための「第2次明日の小金井教育プラン」・「第3次生涯学習推進計画」に基づき、総合的に教育施策を推進するため、令和元年度の教育施策を次のとおり定めました。

## 1 知育・徳育・体育の推進

### (1) 学力の向上

#### ア 教員の授業力向上

- (ア) 基礎的・基本的な知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力、人間性等の涵養を図るため、「主体的・対話的で深い学び」の実現という視点からの授業改善を図る。
- (イ) 教員の教科等の専門性や実践的指導力、幅広い識見を高め、授業力を一層向上させるために、全教員が研究授業に取り組み指導案等を市内教員間で共有する。また教職経験や職層に応じた研究・研修の充実を図る。
- (ウ) 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を展開するために、年間指導計画の充実、授業改善推進プランの作成・活用、児童・生徒による授業評価の実施、授業公開の充実を図る。
- (エ) 学習指導要領に基づいた年間指導計画の適正な作成と実施及び評価の実施、教員の授業力向上に関する研修の充実を図る。

#### イ 学校における個別学習支援の充実

- (ア) 学生ボランティアや地域の教育資源等を活用し、授業の指導補助、放課後や夏季休暇等の補助学習を実施する等、確かな学力の定着を図る。
- (イ) 東京学芸大学等と連携して放課後等の学習の充実を図る。

#### ウ 家庭学習の充実

- (ア) 学校と家庭が連携して家庭学習の習慣化を図るとともに、宿題や予習・復習などの学習課題の充実を図る。
- (イ) 家庭学習のすすめや保護者向け資料「ハートコンタクト」を作成し、家庭での学習習慣の確立やそのための方法等についての啓発を図る。

#### エ 情報教育の充実・教育の情報化

- (ア) 家庭・地域との連携の下、ICT機器の正しい使い方やインターネットやSNS等の利用に関するモラルやマナーを身に付けるための情報モラル教育の充実を図る。
- (イ) 授業において、効果的にICT機器を活用することで、児童・生徒の情報活用能力を高めるとともに、学習内容への興味関心を引き、わかりやすい授業を展開する。また、教員研修の充実を図る。
- (ウ) 論理的思考育成に向けた、プログラミング教育の推進を図る。

## (2) 心の教育

### ア 人権教育の充実

- (7) 教育活動全体を通じて、人権尊重の理念の定着を図るために人権教育を一層推進し、偏見と差別のない望ましい人間関係を確立する。
- (8) いじめは、人間として絶対に許されない人権侵害である。「いじめのないまち小金井宣言」の実現に向け、小金井市いじめ防止基本方針及び学校いじめ防止基本方針に基づき、学校と家庭、地域社会が連携し「いじめを絶対に許さない」ことを児童・生徒の心に浸透させる。
- (9) 小金井市子どもの権利に関する条例のリーフレット、人権教育プログラム（東京都教育委員会）等を活用し、権利と義務、自由と責任についての認識を深めさせ、鋭い人権感覚を身に付けた自立した個人を育てる教育を推進する。
- (10) 小金井市男女平等基本条例の男女両性の本質的平等の理念に基づき、男女が互いの違いを認めつつ、個人として尊重されることを児童・生徒に理解させ、その具現化を図る男女平等教育を推進する。

### イ 豊かな心の育成

- (7) 児童・生徒が、自他をいつくしみ、かけがえのない生命や自然を大切にする等、思いやりの心を育み、人間性豊かに成長できるよう心の教育の充実を図る。
- (8) 児童・生徒が、自分自身の問題と捉え向き合う「考える道徳」「議論する道徳」の実現を目指した「特別の教科 道徳」の充実を図る。
- (9) 児童会・生徒会が主体となって、道徳心や公共心、礼儀正しく生活できる力が育つような校内の取組を推進する。
- (10) 東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、その歴史や意義を学んだり、我が国と世界の国々の歴史や文化、習慣等を体験したりすることで、進んで平和な社会の実現に貢献しようとする児童・生徒を育成する。
- (11) 家庭や地域と連携した道徳教育の推進や道徳授業地区公開講座の充実を図り、社会の一員としての自覚を高め、規範意識を育む教育を推進するとともに、郷土小金井を愛し共に生きる子供を育成する。

### ウ 教育相談の充実

- (7) 不登校やいじめ、暴力行為等、児童・生徒が抱える多様な課題の解決に向け、早期発見・早期対応ができるように不登校カルテを作成のうえ活用し、学校における組織的な教育相談体制の強化を行い、校内支援体制の充実を図るとともに、教員研修の充実を図る。
- (8) 児童・生徒が抱える多様な課題等の対応に当たっては、状況に応じて関係機関等との連携を図りながら、組織的な対応の充実に取り組む。

- (7) 不登校等の課題に対応するため、スクールカウンセラーを学校の生活指導や教育相談組織の中で活用することで、学校の教育相談機能を充実させる。また、教育相談所、もくせい教室及び他の相談機関との連携を深め、児童・生徒等に対する教育相談体制の充実を図る。
- (8) スクールソーシャルワーカーを派遣し、児童・生徒が置かれた様々な環境への働きかけや関係機関とのネットワークを活用することで、児童虐待や家庭の状況等に起因する問題行動等の未然防止、早期発見及び改善を図る。

#### エ 社会貢献精神の育成

- (7) 社会の一員としての自覚を高め、規範意識等を育むために、教育計画に基づき、教職員の適切な指導のもと、社会体験活動やボランティア活動等の充実に努める。
- (8) 職場体験学習の充実を図り、望ましい勤労観・職業観を育むとともに、子供たちの生き方指導や進路に関する指導の充実を図る。

#### オ ふるさと教育の推進

- (7) 日本や世界の伝統・文化に触れる異文化教育や小金井市に由来する人物、風土、環境等を学ぶふるさと教育を通じて、多様な文化や郷土に対する理解を深めるとともに、国際的視野を広める教育を推進する。
- (8) 児童・生徒及び教員が、郷土の自然や人、社会や文化、産業と触れ合う機会を充実させ、ふるさとのよさの発見や愛着心を育むために、積極的に地域と関わる。

### (3) 健康教育

#### ア 食育の推進

食育リーダーによる指導方法の研究を行い、食育を推進する。新入生に食育リーフレットを配布することで、家庭における食生活の大切さの理解向上を図る。また、給食では、地場野菜を活用し、和食献立を充実させる。

#### イ 児童・生徒の体力向上

- (7) 東京オリンピック・パラリンピックに関連した体験や活動を通して、児童・生徒が積極的に運動やスポーツに親しみながら、体力の向上を図る。
- (8) 体力向上推進委員会による児童・生徒の体力調査の実施、分析をもとに体育的活動の改善に努め、体力のさらなる向上を図る。
- (9) 関係機関と連携した保健教育を推進し、健康で安全な生活を送る能力や態度の育成を図る。

### (4) 福祉教育心のバリアフリー事業の推進

ア 障害のある人との交流活動や福祉体験活動等に取り組み、自他を尊重する心や障害についての理解教育の充実を図る。

イ 障害のある人との相互理解を深め、共に助け合い、支え合って生き

ていくことの大切さを学ぶための交流教育の充実や副籍制度に基づいた交流及び共同学習を推進する。

(5) 特別支援教育の充実

ア 障害のある児童・生徒の教育的なニーズに応じた多様な学びの推進に向け、巡回相談、専門相談、校内委員会を充実させる。

イ 障害のある児童・生徒の教育的なニーズに応じた指導、支援の充実に向け特別支援教室の設置や効果的な活用、合理的配慮の提供等についての研究を推進する。

ウ 全教職員の特別支援教育に関する資質、能力を高めるために、校長会、特別支援教育研修会、特別支援学級推進委員会を充実させる。

エ 特別支援教育支援員を配置し、学校における学習支援や日常生活上の介助等を含め、特別な支援が必要な児童・生徒の支援を一層充実させる。

オ 特別な支援を必要とする子供のライフステージに応じた効果的な支援を実現するために、特別支援教育研修会や市民等を対象とした講演会の開催、関係する福祉担当部局と連携することで、支援体制の充実を図る。

## 2 教育環境の整備

(1) 学校地域連携の推進

ア 校長のリーダーシップのもとに、学校の自主性と自律性を確立し、学校、家庭、地域と連携・協力した特色ある教育活動を推進することで各校の教育力の向上を図る。

イ 小金井市公立学校運営連絡会による保護者や地域住民の参画や積極的な授業公開の実施等、開かれた学校づくりを一層推進する。

ウ 学校評価に基づき、学校の教育活動を積極的に保護者や地域住民に説明し、効率的で透明性の高い学校運営を推進する。

エ 全校で地域や近隣の大学、研究所、高度教育機関等との連携を深め、地域・外部の人材等を活用した学校支援体制の整備の充実を図る。

オ 保護者や地域住民との一層の連携を図り、登下校時の見守り等の取組を推進し、通学路や学区域内での児童・生徒の安全確保に努める。

(2) ICT環境の整備

児童・生徒用情報端末の台数・機器を更新し、児童・生徒の学習環境の向上及び情報化への対応を推進するとともに、新学習指導要領の実施に向けたICT教育環境の整備を計画的に推進する。

(3) 学校施設整備等の推進

ア 学校教育の質的向上を図るため、施設・設備及び教育機器等の教材・教具、図書等を充実させるとともに有効活用に努める。

イ 安全・安心な教育環境づくりに努めるとともに、地域の防災拠点の機能を併せもつ学校施設としての充実を図る。

### 3 「生涯学習」と「文化・スポーツ」の振興

#### (1) 生涯学習の推進

- ア 市民一人一人が生涯にわたって自ら学び、文化・スポーツに親しみ、その成果を地域社会の活動に反映できるよう第3次小金井市生涯学習推進計画に沿って施策の推進に努める。
- イ 学校、家庭、地域がその役割と責任を自覚し、相互に連携協力して地域全体で教育力を高める活動を推進する。
- ウ 地域の貴重な資源である大学、文化施設、NPO等市民団体と連携して生涯学習施策を推進する。
- エ 退職前後の中高年層を対象として、学習の機会や情報を提供し、地域活動への参加を推進する。
- オ 市民の学習活動に資するため、市報やホームページ等を活用し、積極的に情報提供に努める。

#### (2) 青少年教育の推進

- ア 家庭教育の充実を図るため、家庭教育に関する学習の機会や情報提供の充実を図る。
- イ 子供たちの安全安心な居場所づくりとして、学校、家庭、地域と一体となって実施している「放課後子ども教室」事業の充実を図る。
- ウ 清里山荘指定管理者と連携し、青少年が豊かな人間関係や社会性を育んでいくことができるよう、自然体験教室、ふれあい体験教室等多くの体験活動の機会を提供するとともに、自然や科学に対する関心を深め、創造性豊かな青少年の育成に努める。

#### (3) スポーツ・レクリエーション活動の推進

- ア 幼児期から高齢者までの市民が、スポーツ・レクリエーションに親しむ機会の場を提供し、健康・体力づくりを推進する。小金井市スポーツ推進計画を、スポーツ関係団体や市民と協働して推進する。
- イ 楽しむスポーツから競技スポーツまで、幅広いスポーツ・レクリエーションの振興を図るため、スポーツ団体の活動を支援する。
- ウ 誰でも、いつでも気軽にスポーツすることができる環境づくりとして体育協会や総合型地域スポーツクラブの活動を支援する。
- エ スポーツ・レクリエーションの普及のため、スポーツ団体と連携して、指導者の育成・派遣等の指導体制の充実を図る。

#### (4) 文化財の保存と啓発活動の推進

- ア 貴重な文化遺産を後世に継承していくため、埋蔵文化財の調査・保存・市指定文化財の保存及び郷土芸能の伝承を支援していくとともに、文化財センターの機能の充実を図る。
- イ 市民の郷土に対する理解を深め地域資料を利活用するため、古文書等の調査を進め、市史編纂資料集等を刊行する。
- ウ 市民が生涯を通じて、地域の歴史や文化財に親しむことができるよう、文化財等の解説や学習団体の支援の充実を図る。
- エ 史跡玉川上水、名勝小金井（サクラ）の整備活用を通して、東京都

及び市民団体と協働してヤマザクラ並木の歴史的景観を復活させる等、協働のまちづくりを推進する。

(5) 公民館の充実

ア 誰もが気軽に立ち寄り、共に学び、共にふれあう身近な公民館運営に努める。

イ 公民館運営に公民館運営審議会委員、企画実行委員の他、市民参加を図り、関連諸機関や市民団体とも協働して充実を図る。

ウ 事業の実施には、地域社会との連携に努め、団体・サークルやNPO法人等の諸機関・諸団体とも協力して充実を図る。

エ 主催講座については、地域的・今日的な課題、心豊かに生きることのできる学びの充実を図り、市民の自主的・自発的な学習活動の推進を支援する。

オ 市民の学習活動に機材・教材を提供し、活動の場の環境整備に努める。

カ 広報活動に市民も参加し、情報の提供に努める。

キ これまでの公民館が果たしてきた役割を踏まえ、公民館の中長期計画の策定を進める。

(6) 図書館の充実

ア 「いつでも」、「どこでも」、「だれでも」、「なんでも」利用できる図書館運営に努める。

イ 「小金井市立図書館運営方針（改訂版）」に基づき、図書館施策を推進する。

ウ 子供の読書活動推進のため、「第3次小金井市子ども読書活動推進計画」に沿って施策の推進に努める。

エ 図書館の利便性向上のため、利用者用インターネット端末の拡充、電子図書の導入、様々なデータベースの提供、資料用I C タグの導入などのI C T化推進について検討を進める。

(7) 社会教育施設の整備

ア 市民の学習・文化活動及び集会の場として、施設の整備等を推進する。

イ 市民のスポーツ・レクリエーション活動の場として、施設の整備充実を図る。

ウ 公民館、図書館、体育館、学校など既存施設の有効活用を積極的に推進する。

エ 震災の経験を踏まえた施設のあり方を検討する。

# 教育目標・基本方針・各計画・教育施策の関係

○理念的な原理・原則

小金井市教育委員会の  
教育目標・基本方針

○中期的な計画

「第2次明日の小金井教育プラン」(学校教育)  
「第3次小金井市生涯学習推進計画」(生涯学習)

○当該年度の短期的な計画  
(毎年度策定)

教育施策・主要事業

## 小金井市教育委員会が目指す教育の実現

小金井市教育委員会は、「教育目標」及び「基本方針」の実現に向け「第2次明日の小金井教育プラン」と「第3次小金井市生涯学習推進計画」を策定しています。

これらの中期的な計画に基づき、当該年度に実施する「教育施策」及び「主要事業」を明確化することができますようにします。

これら「教育施策」及び「主要事業」等を推進していくことで、小金井市教育委員会が目指す教育を実現していきます。

# 令和2年度 点検及び評価対象事業（令和元年度実施事業）

【学校教育】		施策	点検及び評価対象項目名	担当			
小金井市教育委員会 教育目標（平成20年1月24日 小金井市教育委員会決定） 小金井市教育委員会 基本方針1・2・3 第2次明日の小金井教育プラン（H28） 基本視点 小金井らしさの醸成 知育・徳育・体育の推進 第3次小金井市生涯学習推進計画（H28） 基本方針4 学びの継承 未来の創造 学びでつなぐ人・まち・小金井	1 基本視点 知育・徳育・体育の推進 2 教育環境の整備	1 学力の向上	(1) 教員の授業力向上	1 全教員が研究授業の実施 2 学校における校内研究等の実施 3 授業力向上に関する教員研修の実施	指導室 指導室 指導室		
		(2) 学校における個別学習支援の充実	4 東京学芸大学との連携事業による学習支援の実施 5 地域及び学生ボランティア等の人材拡大 6 放課後及び夏季休業日等における補充的な学習の実施 7 個別指導による授業の振り返りの実施	指導室 指導室 指導室			
		(3) 家庭学習の充実	8 宿題や予習・復習などの学習課題についての検討・実施 9 保護者を対象にした講演会の実施 10 家庭学習のしおりの検討・作成・配布	指導室 指導室 指導室			
		(4) 情報教育の充実・教育の情報化	11 情報リテラシー及び情報モラル教育の実施 12 情報教育推進委員会等による教員研修の実施 13 ICTを活用した授業改善の実施	指導室 指導室 指導室			
		2 心の教育	(5) 人権教育の充実	14 学校の全教育活動を通じた計画的な人権教育の実施 15 「小金井子どもの権利に関する条例」の周知 16 人権教育に係る教職員研修の実施	指導室 指導室 指導室		
		(6) 豊かな心の育成	17 児童会、生徒会等による主体的活動の実施 18 学校における体験活動の実施 19 学区・保護者・地域が連携した道徳教育の実施	指導室 指導室 指導室			
		(7) 教育相談の充実	20 いじめ、不登校等に対する組織的な教育相談の実施 21 専門機関と連携した教育相談の実施 22 教育相談に係る教員研修の実施	指導室 指導室 指導室			
		(8) 社会貢献精神の育成	23 地域・ボランティア活動の啓発 24 意図的、計画的なキャリア教育の実施	指導室 指導室			
		(9) ふるさと教育の推進	25 郷土に対する理解や郷土愛に関する学びの実施 26 教員及び児童・生徒の地域行事への参加	指導室 指導室			
		3 健康教育	10 食育の推進	27 食育リーダー会議の開催 28 食に関するリーフレットの作成・配布・改定 29 特色ある献立の定期的な提供	学務課 学務課 学務課		
		11 児童・生徒の体力向上	30 オリピック・パラリンピックに関連した体験や活動等を重視した教育の実施 31 基礎体力や運動技能を高める体育授業の実施	指導室 指導室			
		4 福祉教育	12 心のバリアフリー事業の推進	32 福祉体験活動の実施 33 障害のある方との交流活動の実施	指導室 指導室		
		5 特別支援教育	13 特別支援教育の充実	34 職歴、職種別の教員研修の実施 35 特別な教育ニーズがある児童・生徒に対する人的支援の実施 36 特別支援教室等を活用した学習の実施	指導室 指導室 指導室		
		6 地域連携	14 学校地域連携の推進	37 近隣大学、研究所及び高度教育機関等との連携事業の実施 38 学校と地域の連携事業の実施	指導室 指導室		
		7 ICT環境の整備	15 ICT機器の整備	39 教育用ICT機器の整備	学務課		
		8 学校施設	16 学校施設整備の推進	40 計画的・長期的な方針に基づく、長寿命化を含めた学校施設整備計画の策定 41 トイレ整備事業	庶務課 庶務課		
		【生涯学習】	施策	点検及び評価対象項目名	担当		
		小金井市教育委員会 教育目標（平成20年1月24日 小金井市教育委員会決定） 小金井市教育委員会 基本方針1・2・3 第3次小金井市生涯学習推進計画（H28） 基本方針4 学びの継承 未来の創造 学びでつなぐ人・まち・小金井	基本理念 学びの継承 未来の創造 学びでつなぐ人・まち・小金井	1 学びを豊かにする環境づくり	(1) 学びに関する情報提供と相談体制の充実 (2) 自主的な学習活動への支援 (3) 施設の充実と有効活用の推進	42 サークル案内 43 まなびあい出前講座 44 公民館維持管理事業 45 図書館維持管理業務 46 総合体育館維持管理事業 47 文化財センター維持管理事業	生涯学習課 生涯学習課 公民館 図書館 生涯学習課 生涯学習課
				2 学びを通じた人づくり	(4) 子どもの居場所づくり (5) 世代に応じた学習機会の充実 (6) 多様な学習機会の提供	48 放課後子ども教室 49 おはなし会事業 50 青少年のための科学の祭典 51 家庭教育学級 52 少年自然の家維持管理事業 53 シニア世代のための地域参加講座 54 貸出サービス事業 55 ITサポート事業「こがねいパソコン相談室」 56 市民が作る自主講座 57 青年国際交流講座「生活日本語教室」 58 市史編さん活動 59 古文書講座 60 体育協会・総合型地域スポーツクラブ補助事業 61 スポーツ開放・学校開放事業 62 市民体育祭	生涯学習課 図書館 生涯学習課 生涯学習課 生涯学習課 図書館 公民館 公民館 生涯学習課 生涯学習課 生涯学習課 生涯学習課 生涯学習課 生涯学習課
				3 学びを活かしたまちづくり	(7) 歴史に親しむ機会の提供 (8) 地域人材・リーダーの育成と活用の促進	63 名勝小金井（サクラ）復活プロジェクト 64 ボランティアセミナー 65 スポーツ推進委員事業	生涯学習課 生涯学習課 生涯学習課
				4 学び合いのネットワークづくり	(9) 生涯学習の市外との広域連携の推進	66 広域連携	図書館

## 令和2年度 評価基準

令和2年度（令和元年度事業）の点検評価を実施するに当たり、評価指標は以下のとおりとします。

<b>S</b>	達成し、予想以上の効果又は取り組みとなっている。	施策に沿って事業を進め、当該年度目標及び事業目標を達成し、予想以上に効果的な結果又は目標以上の優れた取り組みとなっている。 (今後の事業展開は、「拡充」)
<b>A</b>	達成している。	施策に沿って事業を進め、当該年度目標を達成し、順調に事業目標に向かっている。又は、事業目標を達成している。(今後の事業展開は、「拡充」又は「継続（現状維持）」)
<b>B</b>	概ね達成している。	施策に沿って事業を進め、当該年度目標を概ね達成したが、事業目標の達成に向けて、改善の余地がある。(今後の事業展開は、「継続（現状維持）」又は「見直し（手法等）」)
<b>C</b>	達成見込みはあるが、一部課題がある。	施策に沿って事業を進めてはいるが、当該年度目標を達成したとはいえ、事業目標の達成見込みがあるものの、改善する必要がある。(今後の事業展開は、「見直し（手法等）」)
<b>D</b>	達成に向けて困難な課題がある又は着手していない。	施策に沿って事業を進めてはいるが、当該年度目標を達成することのできない大きな課題がある。又は、事業自体に着手できていない。(今後の事業展開は、「廃止（縮小）」)

※ 今後の事業展開の指標は、目安である。

# 点検及び評価表（学校教育）

## 1 概要

学校教育の点検及び評価に当たっては、昨年同様、小金井市教育委員会の基本方針に基づいた第2次明日の小金井教育プラン（平成28年度から令和2年度まで）の重点施策である41事業を評価対象とした。

令和元年度については、全事業についてB評価（概ね達成している。）以上と評価した。学校教育における事業が大きな問題なく推進できているものと評価できる。

前年度の評価結果と比較すると、1事業の評価が下がったものの、1事業の評価が2段階上がり、改善がみられた結果となった。具体的には、「20 いじめ、不登校等に対する組織的な教育相談の実施」をSからA評価とした。次に「38 学校と地域の連携事業の実施」をBからS評価とした。令和元年度は緑小学校をコミュニティ・スクール研究校に指定し、全小・中学校で地域との連携事業を実施したことにより、成果が上がっているものとして評価を上げた。

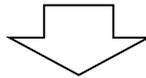
また、コロナウイルス感染防止のため、学校保健安全法第20条に基づき、令和2年3月2日から全小・中学校で臨時休校したものの、前年度に引き続きC・D評価が無いことについては、担当課を中心に小中学校・関係各部署・関係機関と連携しながら、施策及び事業目標の達成に職員が努力した結果であると考えられる。

## 2 評価結果総括

	事業数	S	A	B	C	D
(1) 教員の授業力向上	3		3			
(2) 学校における個別学習支援の充実	4		2	2		
(3) 家庭学習の充実	3		1	2		
(4) 情報教育の充実・教育の情報化	3		3			
(5) 人権教育の充実	3		3			
(6) 豊かな心の育成	3		3			
(7) 教育相談の充実	3		3			
(8) 社会貢献精神の育成	2			2		
(9) ふるさと教育の推進	2		1	1		
(10) 食育の推進	3		3			
(11) 児童・生徒の体力向上	2		2			
(12) 心のバリアフリー事業の推進	2		2			
(13) 特別支援教育の充実	3		3			
(14) 学校地域連携の推進	2	1	1			
(15) ICT機器の整備	1		1			
(16) 学校施設整備の推進	2		2			
合 計	41	1	33	7	0	0
内 訳 (%)		2.4%	80.5%	17.1%	0.0%	0.0%

### 3 評価表

施策1 学力向上	担 当
<b>(1) 教員の授業力向上</b>	指導室
施策内容と目的・目標	<p>児童・生徒が個性と能力を伸ばし、変化の激しいこれからの社会を生きていくための基礎として、「確かな学力」を育成することが必要である。</p> <p>そのために、学校教育の大前提である児童・生徒理解に基づき、学ぶ意欲や知的好奇心を高め、基礎的・基本的な知識・技能とこれらを活用するために必要な思考力・判断力・表現力等を身に付けることができるよう、教員の授業力の向上を図る。</p> <p>そのため、授業力の向上に関する教員研修の充実、学校における校内研究の充実、「開かれた学校の推進」を目指す。</p>
事業展開と令和元年度の計画・目標 ( Plan )	<b>1 全教員が研究授業の実施</b>
	全教員が年に1回研究授業を実施し、指導案、教材等を共有する。
	<b>2 学校における校内研究の実施</b>
	全小・中学校が各校でテーマを設定し、校内研究を実施する。
	<b>3 授業力向上に関する教員研修の実施</b>
	職層や経験に応じた教員向けの研修を実施する。



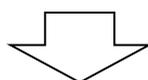
令和元年度の取組状況 ( Do )	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 全小・中学校の全教員が研究授業を実施することができた。また、全校で教材等のデータを共有フォルダに掲載した。</li> <li>2 全小・中学校がそれぞれ課題としているテーマを設定し、校内研究を実施することができた。</li> <li>3 教育委員会主催で初任者・2年次・3年次研修、新任主任教諭研修、新任主幹教諭研修、夏期特別研修等を開催し教員の授業力向上を図るための研修を実施した。国や東京都の授業力向上を図るための研修についても、学校に周知し参加を呼びかけた。 また、校内研修でも授業力向上に関わる研修を実施し、講師として市教委が指導に当たることもあった。</li> </ol>
施策の進捗状況	教員の授業力向上は終わりが無い。児童・生徒の学力調査等の結果はよいものとなっているが、今後も授業改善を進めていく。

<b>1</b>		<b>全教員が研究授業の実施</b>	
		自 己 評 価 ( Check )	今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
<b>A</b>	<b>A</b>	小・中学校の全教員が研究授業を実施し、指導案、教材等を共有した。	
今後の方向性と改善策 ( Action )		すべての教員が、年1回の研究授業を実施するだけでなく、ICTを活用して、指導案や教材等を市内の教員で共有していきたい。	

<b>2</b>		<b>学校における校内研究の実施</b>	
		自 己 評 価 ( Check )	今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
<b>A</b>	<b>A</b>	全小・中学校が新しい学習指導要領に関連したテーマを設定し、校内研究を実施することができた。	
今後の方向性と改善策 ( Action )		小学校は新学習指導要領が始まり、中学校は次年度からである。新学習指導要領の理解を深めることは、教員の授業力向上のために大切である。今後も新しい学習指導要領に関連したテーマを設定し、ICTを活用した授業改善を中心とした校内研究を実施させる。	

<b>3</b>		<b>授業力向上に関する教員研修の実施</b>	
		自 己 評 価 ( Check )	今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
<b>A</b>	<b>A</b>	初任者・2年次・3年次研修、新任主任教諭研修、新任主幹教諭研修、夏期特別研修等を開催し教員の授業力向上を図るための研修を実施した。	
今後の方向性と改善策 ( Action )		個々の教員の資質、能力の向上のため職種・職層に応じた研修の充実を図る。	

施策1 学力向上	担 当
<b>(2) 学校における個別学習支援の充実</b>	指導室
施策内容と目的・目標	学力向上のためには、児童・生徒一人一人に応じた個別指導の充実が必要である。授業の中での個に応じた指導は、どの教員も行っているところであるが、特に学習の定着ができていない児童・生徒には授業以外での個別の学習支援が大切である。
事業展開と令和元年度の計画・目標 ( Plan )	<b>4 東京学芸大学との連携事業による学習支援の実施</b> 東京学芸大学との連携事業で放課後や夏季休業日の学習支援教室を実施する。
	<b>5 地域及び学生ボランティア等の人数拡大</b> 小・中学校において、地域及び学生ボランティアによる放課後や土曜日等の学習教室を実施する。
	<b>6 放課後及び夏季休業日等における補充的な学習の実施</b> 児童・生徒に基礎的・基本的な学習の確実な定着を図るため、放課後及び夏季休業日等に補充的な学習教室を実施する。
	<b>7 授業の振り返りの実施</b> 教員には一時間の授業の中で最後に学習したことを振り返る活動を取り入れるよう指導し、一人一人が授業を振り返る活動を行わせる。



令和元年度の取組状況 ( Do )	<p>4 東京学芸大学との連携事業で放課後の学習支援教室を小学校1校・中学校1校で実施した。また、夏季休業日には市内全小中学生の希望者に学習支援教室を実施した。</p> <p>5 小・中学校において、地域及び学生ボランティアによる放課後や土曜日等の学習教室を実施した。できる限りの個別指導が行われるようにしている。</p> <p>6 児童・生徒に基礎的・基本的な学習の確実な定着を図るため、放課後及び夏季休業日等に補充的な学習教室を実施した。</p> <p>7 研修等で教員に一時間の授業の中で最後に学習したことを振り返る活動を取り入れるよう指導した。</p>
施策の進捗状況	学力向上のためには一人一人に応じた個別の指導が必要である。大学、地域と連携した学習教室のさらなる充実を図る。

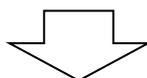
4		東京学芸大学との連携事業による学習支援の実施	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	
A	A	東京学芸大学との連携事業で放課後の学習支援教室を小学校1校・中学校1校で実施した。また、夏季休業日には市内全小中学生の希望者に学習支援教室を実施した。	
今後の方向性と改善策 (Action)			<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
		学芸大学との連携事業は令和元年度で終了した。学芸大学との連携事業は別のテーマで進めていく。学習支援は、他大学との連携を視野に検討していく。	

5		地域及び学生ボランティア等の人数拡大	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	
B	B	令和元年度学生ボランティアに配布した図書カードは、小学校のべ460人、中学校のべ86人であった。その他、インターンシップの学生やPTA、地域の方の無償ボランティアも各校で支援に入っている。	
今後の方向性と改善策 (Action)			<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
		学生ボランティアだけでなく、広くボランティア活動の方々が学校の支援に当たれるよう、外部人材活用すべてに謝金を支払えるよう制度を整備する。	

6		放課後及び夏季休業日等における補充的な学習の実施	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	
B	B	児童・生徒に基礎的・基本的な学習の確実な定着を図るため、全小・中学校が放課後及び夏季休業日等に補充的な学習教室を実施した。	
今後の方向性と改善策 (Action)			<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
		児童・生徒に基礎的・基本的な学習の確実な定着を図るため、放課後及び夏季休業日等に補充的な学習教室を充実していく。ICTを活用して、オンラインでも学習できるよう工夫をしていく。	

7		授業の振り返りの実施	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	
A	A	研修等で教員に1時間の授業の中で最後に学習したことを振り返る活動を取り入れるよう指導した。	
今後の方向性と改善策 (Action)			<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
		今後も研修等で教員に1時間の授業の中で最後に学習したことを振り返る活動を取り入れるよう指導していく。	

施策1 学力向上	担 当
<b>(3) 家庭学習の充実</b>	指導室
施策内容と 目的・目標	学校での学習内容の定着には、家庭学習の充実が大切である。学習習慣を身に付けさせるために家庭学習の充実を図る。
事業展開と 令和元年度の 計画・目標 (Plan)	<b>8 宿題や予習・復習などの学習課題についての検討・実施</b> 宿題や予習・復習などの学習課題について学年の教員で検討したり、学校全体で調整したりする。
	<b>9 保護者を対象にした講演会の実施</b> 保護者を対象に家庭学習の大切さややり方などについて講演会を実施する。
	<b>10 家庭学習のしおりの検討・作成・配布</b> 家庭学習のしおりの検討・作成・配布をする。



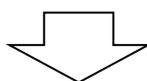
令和元年度の 取組状況 (Do)	8 宿題や予習・復習などの学習課題について学年の教員で検討したり、学校全体で調整したりするよう指導した。 9 各学校で保護者会等の機会をとらえて、保護者を対象に家庭学習の大切さややり方などについて講演等を行った。 10 各学校の実態に応じて、各学校が家庭学習のしおりを作成した。
施策の 進捗状況	家庭学習は重要ではあるが、各学校、各家庭の実態に応じて考えなければならない。教育委員会としては、各学校へ家庭への理解を深めるよう指導していく。

<b>8</b>		<b>宿題や予習・復習などの学習課題についての検討・実施</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
<b>A</b>	<b>A</b>	宿題や予習・復習などの学習課題について学年の教員で検討したり、学校全体で調整したりするよう指導した。	
今後の方向性と改善策 (Action)		発達段階や習熟の程度に応じた学習課題であることが大切であることから、学校全体で方針をもって実施させていきたい。	

<b>9</b>		<b>保護者を対象にした講演の実施</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
<b>B</b>	<b>B</b>	全小・中学校で保護者会等の機会をとらえて、保護者を対象に家庭学習の大切さや学習の仕方などについて講演を行った。	
今後の方向性と改善策 (Action)		今後も、地域や実態に応じた講演とするため、各学校で実態に応じて、保護者会等で家庭学習の大切さや学習の仕方などの講演を実施していく。	

<b>10</b>		<b>家庭学習のしおりの検討・作成・配布</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
<b>B</b>	<b>B</b>	各学校の実態に応じて、各学校が家庭学習のしおりを作成した。	
今後の方向性と改善策 (Action)		発達段階や習熟の程度に応じた家庭学習のあり方は違うことから、各学校の実態に合わせた家庭学習のしおりを作成するように指導する。	

施策1 学力向上	担 当
<b>(4) 情報教育の充実・教育の情報化</b>	指導室
施策内容と 目的・目標	情報化社会の急激な進歩に伴い、児童・生徒を取り巻く環境も大きく変化している。情報教育の充実及び教育の情報化を進めていく。
事業展開と 令和元年度の 計画・目標 (Plan)	<b>11 情報リテラシー及び情報モラル教育の実施</b> 各教科等の指導を通して情報モラルを身に付け、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できるようにする。
	<b>12 情報教育推進委員会等による教員研修の実施</b> 教員が授業でコンピュータ等を円滑かつ効果的に活用する力を身に付けるとともに、情報教育の実践的指導力を身に付ける。
	<b>13 ICTを活用した授業改善の実施</b> 情報化社会に適応する能力を培うことを視野に入れたICT機器を活用した授業を実施し、情報教育の充実・教育の情報化を推進する。



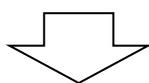
令和元年度の 取組状況 (Do)	<p>11 各教科等を通して情報モラルを身に付ける指導を行った。また、全小・中学校でSNS学校ルールを作成し、情報モラル教育に取り組んだ。</p> <p>12 情報教育推進委員会を年2回実施した。プログラム教育推進校を1校指定し、授業公開を実施した。</p> <p>13 ICT活用授業推進校を2校（前原小・本町小）、研究奨励校として1校（南中）を指定し、授業公開を行った。</p>
施策の 進捗状況	GIGAスクール構想を推進し、1人1台のパソコンの整備を目指す。プログラミング教育だけでなく、各教科等での活用の仕方を研究していく。

<b>1 1</b>		<b>情報リテラシー及び情報モラル教育の実施</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
<b>A</b>	<b>A</b>	各教科等を通して情報モラルを身に付ける指導を行った。また、全小・中学校でSNS学校ルールを作成し、情報モラル教育に取り組んだ。	
今後の方向性と改善策 (Action)		学習指導要領に則した教育活動の適切な実施を行う。その中で情報リテラシー及び情報モラル教育の内容を適切に扱う。	

<b>1 2</b>		<b>情報教育推進委員会等による教員研修の実施</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
<b>A</b>	<b>A</b>	情報教育推進委員会を年2回実施した。プログラミング教育推進校を1校指定し、授業公開を実施した。	
今後の方向性と改善策 (Action)		GIGAスクール構想で1人1台のパソコン整備を目指す。情報教育推進委員会は、次世代教育推進委員会として学校の教育活動、家庭学習支援などICTの活用について研究、研修の充実を図っていく。	

<b>1 3</b>		<b>ICTを活用した授業改善の実施</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
<b>A</b>	<b>A</b>	ICT活用授業推進校を2校 (前原小・本町小)、研究奨励校として1校 (南中) を指定し、授業公開を行った。	
今後の方向性と改善策 (Action)		次世代教育推進委員会として学校の教育活動、家庭学習支援などICTの活用について研究、研修の充実を図っていく。その成果を全校に広め、ICTを活用した授業改善を進めていく。情報教育アドバイザーの拡充を検討する。	

施策2 心の教育	担 当
<b>(5) 人権教育の充実</b>	指導室
施策内容と 目的・目標	教職員の児童・生徒理解のもと、全教育活動を通して、一人一人を大切に にする組織的・計画的な人権教育を実施する。
事業展開と 令和元年度の 計画・目標 ( Plan )	<b>14 学校の全教育活動を通じた計画的な人権教育の実施</b> 各学校で全ての教育活動を通して、意図的で計画的な人権教育の推進を 図る。
	<b>15 「小金井市子どもの権利に関する条例」の周知</b> 「小金井市子どもの権利に関する条例」を全ての学校に周知し、リーフ レットを活用して児童・生徒の理解を深める。
	<b>16 人権教育に係る教職員研修の実施</b> 人権教育に関する教職員向けの研修会を実施し、人権感覚を高めるよう 指導した。



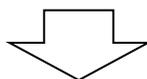
令和元年度の 取組状況 ( Do )	14 全小・中学校で人権教育推進計画を策定している。計画に従い、各教 科等の関連を図りながら実施している。 15 「小金井市子どもの権利に関する条例」リーフレットを全小・中学校 に配布し、活用するよう周知した。 16 人権尊重教育推進校公開授業・講演会への参加をすすめた。人権教育 推進委員が各校での人権教育の推進役となり、校内での研修を行っ た。
施策の 進捗状況	一人一人の児童・生徒を大切にするという考えは、全ての教育活動を通 じて行わなければならない。今後も人権教育の充実を図っていく。

<b>1 4</b>		<b>学校の全教育活動を通じた計画的な人権教育の実施</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
<b>A</b>	<b>A</b>	全小・中学校で人権教育推進計画を策定している。計画に従い、各教科等の関連を図りながら実施している。	
今後の方向性と改善策 (Action)		各教科等と総合的な学習の時間、道徳の時間など関連をもたせながら、計画的に実施するよう指導していく。	

<b>1 5</b>		<b>「小金井市子どもの権利に関する条例」の周知</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
<b>A</b>	<b>A</b>	「小金井市子どもの権利に関する条例」リーフレットを全小・中学校に配布し、活用するよう周知した。	
今後の方向性と改善策 (Action)		今後もリーフレットを活用し、発達段階に応じた指導の工夫等を促していく。	

<b>1 6</b>		<b>人権教育に係る教職員研修の実施</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
<b>A</b>	<b>A</b>	本市の人権尊重教育推進校での公開授業・講演会に市内全小学校から参加した。	
今後の方向性と改善策 (Action)		教職員の人権感覚を磨くことが、子ども達の人権教育推進にもつながることから、職層に応じた人権教育に関する研修の充実を図る。	

施策2 心の教育		担 当
<b>(6) 豊かな心の育成</b>		指導室
施策内容と 目的・目標	児童・生徒が自他をいつくしみ、かけがえのない生命や自然を大切に するなど、思いやりの心を育み、人間性豊かに成長できるよう心の教育の充 実を図る。	
事業展開と 令和元年度の 計画・目標 ( Plan )	<b>17 児童会、生徒会等による主体的活動の実施</b>	
	児童会・生徒会が主体となって、道徳心や公共心、礼儀正しく生活でき る力が育つような校内の取組を推進する。	
	<b>18 学校における体験活動の実施</b>	
	職場体験や福祉体験等、学校における体験活動を通して、児童・生徒の 豊かな心の育成に取り組む。	
	<b>19 学校・保護者・地域が連携した道徳教育の実施</b>	
	家庭や地域と連携した道徳教育の推進を図り、社会の一員としての自覚 を高め、規範意識を育む教育を推進する。	



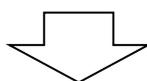
令和元年度の 取組状況 ( Do )	17 児童会・生徒会等が主体となって、あいさつ運動、いじめ防止などの 取組を実施した。 18 職場体験や福祉体験等、各教科等と効果的に関連付けた学習活動を実 施した。 19 全小中学校14校で道徳授業公開講座を実施した。保護者、地域と連 携した道徳教育の推進が図られた。
施策の 進捗状況	児童・生徒が自他をいつくしみ、かけがえのない生命や自然を大切にす るなど、思いやりの心を育み、人間性豊かに成長できるよう、さらなる心 の教育の充実を図る。

<b>17</b>		<b>児童会、生徒会等による主体的活動の実施</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
<b>A</b>	<b>A</b>	児童会・生徒会等が主体となって、あいさつ運動、いじめ防止などの取組を実施した。小金井教育の日に中学校生徒会活動の情報交換を行った。	
今後の方向性と改善策 (Action)		児童会・生徒会等による主体的活動が、各校の創意工夫により、一層活性化するように、これまでの取組を継続していく。	

<b>18</b>		<b>学校における体験活動の実施</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
<b>A</b>	<b>A</b>	職場体験や福祉体験等、各教科等と効果的に関連付けた学習活動を実施した。	
今後の方向性と改善策 (Action)		職場体験や福祉体験等の成果のあった事例を校長会、教務主任研修会等で紹介するなど、各学校における体験活動の内容をより一層工夫させる。	

<b>19</b>		<b>学校・保護者・地域が連携した道徳教育の実施</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
<b>A</b>	<b>A</b>	全小中学校14校で道徳授業公開講座を実施した。保護者、地域と連携した道徳教育の推進が図られた。	
今後の方向性と改善策 (Action)		学校・保護者・地域が一層の連携を進める中で、指導主事等が学校訪問し、直接指導・助言するなど、特別の教科道徳についての理解を深めていく。	

施策2 心の教育	担 当
<b>(7) 教育相談の充実</b>	指導室
施策内容 と 目的・目標	いじめや不登校等、児童・生徒が抱える多様化、複雑化した課題の解決に向け、教員の資質向上を図り、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携した組織的な教育相談体制の充実を推進する。
事業展開 と 令和元年度の 計画・目標 ( Plan )	<b>20 いじめ、不登校等に対する組織的な教育相談の実施</b> いじめ、不登校の未然防止及び早期発見・早期対応を目指した学校の相談体制を構築し、迅速に問題解決を行う。
	<b>21 専門機関と連携した教育相談の実施</b> 医師、大学教授、作業療法士、臨床心理士等の専門家を学校へ派遣し、専門的な知見を生かしたアセスメントを行い、教育相談の充実を図る。
	<b>22 教育相談等に係る教員研修の実施</b> いじめ、不登校等児童・生徒の抱える課題を理解し、問題解決のための効果的な指導方法についての研修会を実施する。



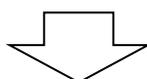
令和元年度の 取組状況 ( Do )	<p>20 全小中学校14校でいじめや不登校等に対応する校内委員会を設置し、定期的を開催した。全小中学校14校で小学5年生・中学1年生を対象にスクールカウンセラーの全員面接を実施した。</p> <p>21 全小中学校に、様々な悩みを抱える児童・生徒一人一人に対して、きめ細かく対応するために、医療機関、大学等と連携し、教育相談を実施した。</p> <p>22 教育相談研修会や関係機関と連携した地区連絡協議会を実施した。</p>
施策の 進捗状況	いじめ、不登校等の課題解決に向け、教員の資質向上を図るために研修会を実施したり、校内体制の整備を図ったりするなどした。小金井市いじめ防止対策推進条例を制定中であり、令和2年度中に制定予定である。

<b>20</b>		<b>いじめ、不登校等に対する組織的な教育相談の実施</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	
<b>S</b>	<b>A</b>	全小中学校14校で小学5年生・中学1年生を対象にスクールカウンセラーの全員面接を実施した。月に5日欠席した児童・生徒には不登校カルテを作成し、教育相談所に提出するとともに、支援方法について適宜指導・助言を行った。	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		不登校カルテを活用して、市の教育相談所を中心とした不登校対策委員会の指導・助言の充実を図る。	

<b>21</b>		<b>専門機関と連携した教育相談の実施</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	
<b>A</b>	<b>A</b>	全小中学校に、様々な悩みを抱える児童・生徒一人一人に対して、きめ細かく対応するために、医療機関、大学等と連携し、教育相談を実施した。	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		教育相談での専門的なアドバイスを指導に生かしていく。今後とも、充実させていく。また、教育相談所職員、もくせい教室職員も定期的に学校を巡回し、学校の支援に当たる。	

<b>22</b>		<b>教育相談等に係る教員研修の実施</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	
<b>A</b>	<b>A</b>	教育相談研修会や関係機関と連携した地区連絡協議会を実施した。	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		初任者研修でも教育相談に関わる研修を取り入れていくなど、職層に応じた研修の充実を図るとともに、ケース事例を取り入れるなど実践的な研修としていく。	

施策2 心の教育		担 当
<b>(8) 社会貢献精神の育成</b>		指導室
施策内容 と 目的・目標	社会の一員としての自覚を高め、規範意識を育むために、教育計画に基づき、教職員の適切な指導のもと、社会体験活動やボランティア活動等の充実に努める。	
事業展開と 令和元年度の 計画・目標 (Plan)	<b>23 地域・ボランティア活動の啓発</b>	
	ボランティアカードを活用して、地域ボランティア活動への参加を推奨する。	
	<b>24 意図的、計画的なキャリア教育の実施</b>	
	発達段階に応じて職場体験、職場訪問等を実施し、児童・生徒の職業観・勤労観を育む。	

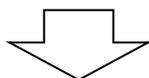


令和元年度の 取組状況 (Do)	<p>23 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると回答した割合は、 小学6年生 55.8% (東京都54.4%) 中学3年生 36.5% (東京都38.7%) であった。</p> <p>24 将来の夢や希望を持っていると回答した割合は、 小学6年生 82.6% (東京都82.6%) 中学3年生 65.3% (東京都68.6%) であった。</p>
施策の 進捗状況	今後も、地域ボランティア活動の情報提供や積極的な評価を行っていく。

<b>23</b>		<b>地域・ボランティア活動の啓発</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	
<b>B</b>	<b>B</b>	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると回答した割合は、 小学6年生 55.8% (東京都54.4%) 中学3年生 36.5% (東京都38.7%) であった。	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		ボランティアカードを活用して、地域ボランティア活動への参加をさらに呼びかけていく。アンケートの項目が変更されたため、成果指標を上記のものとする。	

<b>24</b>		<b>意図的、計画的なキャリア教育の実施</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	
<b>B</b>	<b>B</b>	将来の夢や希望を持っている割合は、 小学6年生 82.6% (東京都82.6%) 中学3年生 65.3% (東京都68.6%) であった。	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		発達段階に応じて職場体験、職場訪問等を実施し、児童・生徒の職業観・勤労観を育む。	

施策2 心の教育	担 当
<b>(9) ふるさと教育の推進</b>	指導室
施策内容と目的・目標	小金井市に由来する人物、風土、環境等を学ぶ、ふるさと教育を通じて、多様な文化や郷土に対する理解を深める。
事業展開と令和元年度の計画・目標 (Plan)	<b>25 郷土に対する理解や郷土愛に関する学びの実施</b>
	小金井市に由来する人物、風土、環境等を学ぶことにより、郷土に関する理解や郷土愛の心を育てる。
	<b>26 教員及び児童・生徒の地域行事への参加</b>
	地域行事などの積極的な参加を促し、ふるさとへの愛着や誇りの醸成、地域に貢献しようとする意欲の向上を図る。

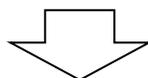


令和元年度の取組状況 (Do)	25 小学校3・4年生の社会科を中心に、地域探検をするなど小金井市に由来する人物、風土、環境等を学習した。 26 地域行事の情報提供や地域行事へのボランティア参加を促した。地域の行事に参加した割合は、 小学6年生 52.0% (東京都 55.9%) 中学3年生 31.4% (東京都 40.1%) であった。
施策の進捗状況	小学校社会科副読本の内容の充実を図る。小金井に関する地域教材の研究・開発を行う。

<b>25</b>		<b>郷土に対する理解や郷土愛に関する学びの実施</b>	
自己評価 (Check)		今後の事業展開	
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
<b>A</b>	<b>A</b>	小学校3・4年生の社会科を中心に、地域探検をするなど小金井市に由来する人物、風土、環境等を学習した。	
今後の方向性と改善策 (Action)		小学校社会科副読本の内容の充実を図るため、改訂を行う。子どもたちの興味・関心が高まるよう工夫する。	

<b>26</b>		<b>教員及び児童・生徒の地域行事への参加</b>	
自己評価 (Check)		今後の事業展開	
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
<b>B</b>	<b>B</b>	地域行事の情報提供を行った。中学生が参加したと思う地域行事は少ない。	
今後の方向性と改善策 (Action)		部活動、習い事など土日も小金井市の小・中学生は忙しいと推察される。今後とも、ボランティアカード等を活用し、ボランティア参加を推進していく。	

施策3 健康教育		担当
<b>(10) 食育の推進</b>		学務課
施策内容 と 目的・目標	<p>子どもの食生活は、心身の成長や健康の維持増進の上で重要であることから、学校、家庭、地域が連携し、次世代を担う子どもの望ましい食生活の形成に努める必要がある。</p> <p>食育の普及・促進のため、給食に特色ある献立を提供することや、リーフレットを作成し、保護者へ配布することにより、家庭における食生活の大切さの理解の向上を図る。</p> <p>そのため、食育リーダーによる食育に関する指導方法の研究、家庭における食生活の大切さの理解の向上及び特色ある献立の充実を目指す。</p>	
事業展開 と 令和元年度の 計画・目標 ( Plan )	<b>27 食育リーダー会議の開催</b>	
	今年度は2回開催予定。第1回は各校の食育リーダーより状況報告を行なう。第2回は栄養士会との合同の講演会を実施予定。食育関係の講師を依頼し、学務課より、指導室、学校関係者のみならず健康課及び市食育推進会議委員、保育課の職員にも通知する。	
	<b>28 食に関するリーフレットの作成・配布・改定</b>	
	新リーフレットを全児童・生徒分を印刷し、学校を通じて配布する。	
	<b>29 特色ある献立の定期的な提供</b>	
	地場野菜を使用した献立を提供していくために、JA や農家の方、農業委員会事務局、栄養士会と学務課とで情報交換の場を持つ。	



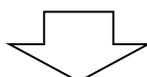
令和元年度の 取組状況 ( Do )	<p>27 年2回の会議を開催し、第2回は食育・野菜料理コーディネーターを講師に迎え、「やさいが大好きになるひ・み・つ～野菜の食育～」をテーマに栄養士会との合同の講演会を開催した。</p> <p>28 小学校1年生及び転入生の保護者に対し、学校を通じ配布することができた。</p> <p>29 地場野菜の普及促進のため、JA、農家、農業委員会事務局、健康課、栄養士会、学務課と情報交換の場として年2回の懇談会を実施した。</p>
施策の 進捗状況	給食に地場野菜を活用した共通献立「江戸こがね汁」の提供や、教育に関連する特色ある献立を提供し、リーフレットを配布することにより、食育の普及・推進について一定の進捗があったものと考えている。

<b>27</b>		<b>食育リーダー会議の開催</b>	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	
A	A	食育リーダー会議を6月と11月の計2回開催し、11月の会議では、「やさいが大好きになるひ・み・つ～野菜の食育～」という講演に参加し、野菜についての理解を深め、食育指導の研究を行った。	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		引き続き食育の推進を図り、併せて指導方法の研究を行う。	

<b>28</b>		<b>食に関するリーフレットの作成・配布・改定</b>	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	
A	A	平成27年度に食育リーダー会で作成したリーフレットを、小学校1年生、転入生の保護者に対し、学校を通じ配布した。 試食会等で保護者に対し、食育の事例を紹介するなど、栄養指導にも活用した。	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		全児童・生徒の保護者にリーフレットを配布・周知することで、学校と家庭が連携した食育の推進を目指す。 令和元年度に食育リーダー会で内容の検討を行い、令和2年度に改訂を予定。	

<b>29</b>		<b>特色ある献立の定期的な提供</b>	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	
A	A	市立小中学校では、教育に関連した特色ある献立を提供するとともに、地場野菜を活用した共通献立「江戸こがね汁」を提供した。なお、野菜使用総量に占める地場野菜の使用率は12.78%となった。	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		食育の普及・促進のため、給食に特色ある献立を提供するとともに、地域と連携し、更なる地場野菜の活用を図る。	

施策3 健康教育		担当
<b>(11) 児童・生徒の体力向上</b>		指導室
施策内容と目的・目標	東京オリンピック。パラリンピックに関連した体験や活動を通して、児童・生徒が積極的に運動やスポーツに親しみながら、体力の向上を図る。	
事業展開と令和元年度の計画・目標 (Plan)	<b>30 オリンピック・パラリンピックに関連した体験や活動等を重視した教育の実施</b>	
	小・中学校全14校において、オリンピック・パラリンピック教育の全体計画、年間指導計画を策定する。	
	<b>31 基礎体力や運動技能を高める体育授業の実施</b>	
	体力向上委員会で体力調査の分析を行うとともに、体育の授業研究を行い、その成果を還元することで全校の児童・生徒の体力向上を図る。	

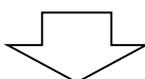


令和元年度の取組状況 (Do)	30 小・中学校全14校において、オリンピック・パラリンピック教育推進校として全体計画、年間指導計画を策定した。また、オリンピック教育アワードとして1校、文化プログラム・学校連携事業（地域連携型）として1校指定を受け活動した。 31 体力向上推進委員会を開催し、実技研修やコーディネーショントレーニング研修を実施した。また、国際的なスポーツ大会を契機とした体力向上事業として地区が指定を受けて取り組んだ。
施策の進捗状況	アスリートを招聘して講演会をするなどオリンピック・パラリンピックに関わる教育を推進していく。

<b>30</b>		<b>オリンピック・パラリンピックに関連した体験や活動等を重視した教育の実施</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充
<b>A</b>	<b>A</b>	小・中学校全14校において、オリンピック・パラリンピック教育推進校として全体計画、年間指導計画を策定した。	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		オリンピックが終わっても引き続き残していく取組となるよう計画させる。	

<b>31</b>		<b>基礎体力や運動技能を高める体育授業の実施</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充
<b>A</b>	<b>A</b>	体力向上推進委員会を開催し、研究授業と実技研修を実施した。	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		体力向上推進委員会を中心に体力調査の分析や体育の授業の改善を進める。	

施策4 福祉教育	担 当
<b>(12) 心のバリアフリー事業の推進</b>	指導室
施策内容と目的・目標	障害のある人との交流活動や福祉体験活動等に取り組み、自他を尊重する心や障害についての理解を深める。
事業展開と令和元年度の計画・目標 (Plan)	<b>32 福祉体験活動の実施</b> 福祉体験活動を通して、障害に対する理解を深め、みんなが協力して助け合うことのできる社会の実現を目指す。
	<b>33 障害のある方との交流活動の実施</b> 障害のある人との相互理解を深め、共に助け合い、支えあって生きていくことの大切さを学ぶための交流教育の充実や副籍制度を活用した交流及び共同学習を推進する。

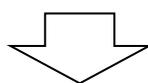


令和元年度の取組状況 (Do)	32 全小・中学校14校で福祉に関する学習を実施した。 バリアフリー、ユニバーサルデザインに関する学習や車椅子、点字、ブラインドサッカーなどの体験活動を行った。
33	全小・中学校14校で障害のある人との交流活動を実施した。
施策の進捗状況	パラリンピック選手との交流や講演会などの実施を促進していく。

<b>32</b>		<b>福祉体験活動の実施</b>	
自己評価 (Check)		今後の事業展開	
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
A	A	全小・中学校14校で福祉に関する体験的な学習を実施した。	
今後の方向性と改善策 (Action)		これまでの授業実践の好事例や自前授業を行う支援団体等の情報を市内小・中学校で共有し、福祉体験活動の充実を行い、児童・生徒の障害に対する理解を深める。	

<b>33</b>		<b>障害のある方との交流活動の実施</b>	
自己評価 (Check)		今後の事業展開	
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
A	A	全小・中学校14校で障害のある人を講師に招いた講演や交流活動を実施した。 都立特別支援学校の副籍制度を生かした直接交流及び間接交流を実施した。	
今後の方向性と改善策 (Action)		2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、パラリンピック選手による講演や児童・生徒との交流、パラスポーツの支援団体との連携した取組を推進する。 障害のある人と障害のない人が交流を通じて相互理解を図り、互いに支えあいながら共に暮らす地域社会を目指し、副籍制度の充実を行う。	

施策5 特別支援教育	担当
<b>(13) 特別支援教育の充実</b>	指導室
施策内容 と 目的・目標	障害のある児童・生徒の教育的なニーズに応じた多様な学びを推進していく。
事業展開 と 令和元年度の 計画・目標 (Plan)	<b>34 職層、職種別の教員研修の実施</b> 特別支援教育にかかわる教員の資質、能力を高めるために、職層、職種に応じた教員研修の充実を図る。
	<b>35 特別な教育ニーズがある児童・生徒に対する人的支援の実施</b> 特別な教育ニーズがある児童・生徒に効果的な人的支援を計画的に実施する。
	<b>36 特別支援教室等を活用した学習の実施</b> 障害のある児童・生徒の一人一人の能力を最大限に伸張するため、特別支援教室等を活用した学習を実施する。



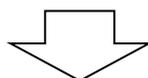
令和元年度の 取組状況 (Do)	<p>34 職層等に応じた特別支援教育にかかわる研修を実施した。 初任者研修 1 回 特別支援学級推進委員会 8 回 特別支援教育研修会 8 回</p> <p>35 小学校年 8 回、中学校年 3 回巡回相談を実施した。 年 4 回程度、要望に応じ専門家チームによる専門相談を実施した。 特別支援教育支援員・学習指導員を計画的に配置した。</p> <p>36 小学校全校に特別支援教室を設置し、拠点校 3 校から全小学校を巡回するシステムの準備をした。</p>
施策の 進捗状況	今後とも、教員の特別支援教育に関する資質・能力を高める施策を計画していく。中学校特別支援教室の設置に向けた準備を始める。

3 4		職層、職種別の教員研修の実施	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	
A	A	若手教員から管理職まで、職層に応じた研修を実施し、特別支援教育の理解を深めた。	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		<p>今後とも最新の特別支援教育について教員研修を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣大学と連携し、特別支援教育研修の内容の充実を図る。</li> <li>・都立小金井特別支援学校のセンター的機能を生かし、特別支援学級の専門性向上研修を実施するなど、連携の充実を図る。</li> <li>・都立特別支援学校エリアネットワーク (都立小金井特別支援学校、都立小平特別支援学校、都立田無特別支援学校) を生かした夏季特別研修の充実を図る。</li> </ul>	

3 5		特別な教育ニーズがある児童・生徒に対する人的支援の実施	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	
A	A	巡回相談、専門相談、特別支援教育支援員・学習指導員の配置など計画的に支援することができた。	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		<p>近隣大学や医療機関と連携し、巡回相談・専門相談におけるアセスメントの充実を行い、児童・生徒の教育的ニーズを把握する。</p> <p>学校生活支援シート (個別の教育支援計画)、個別指導計画の活用・充実を行い、児童・生徒の教育的ニーズに即した支援を計画的に行う。</p> <p>特別支援教育支援員・学習指導員を学校の実態に合わせて計画的に配置する。</p>	

3 6		特別支援教室等を活用した学習の実施	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	
A	A	<p>小学校特別支援教室を開設し、円滑な運営ができるよう支援した。</p> <p>小金井市における特別支援教室について資料を作成し、保護者・市民向けの説明会を実施した。</p>	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		<p>特別支援教室巡回指導教員と特別支援教室専門員の連絡会を定期的開催し、運営上の課題等を話し合い、随時課題解決を行う。</p> <p>令和3年度開設予定の中学校特別支援教室の計画立案など検討委員会を開催し、協議を始める。</p>	

施策6 地域連携	担 当
<b>(14) 学校地域連携の推進</b>	指導室
施策内容と 目的・目標	地域や近隣の大学、研究所等との連携を深め、地域・外部の人材等を活用した学校支援体制の充実を図る。
事業展開と 令和元年度の 計画・目標 (Plan)	<b>37 近隣大学、研究所及び高度教育機関等との連携事業の実施</b> 近隣大学、研究所、高度教育機関等との連携を図り、質の高い教育活動を展開する。
	<b>38 学校と地域の連携事業の実施</b> 地域の高い教育力を生かし、文化、教育、学術の振興・発展を図る。

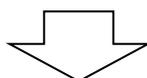


令和元年度の 取組状況 (Do)	37 ・東京学芸大学…教職大学院連携協力校 ・武蔵野大学…教育インターンシップ受け入れ ・東京都立多摩科学技術高等学校…地域連携企画 38 緑小学校をコミュニティ・スクール研究校に指定し、その成果を共有する。小・中学校全14校で地域との連携事業を実施した。
施策の 進捗状況	地域や近隣の大学、研究所等との連携をさらに深め、地域・外部の人材等を活用した学校支援体制の充実を図っていく。

<b>37</b>		<b>近隣大学、研究所及び高度教育機関等との連携事業の実施</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充
<b>A</b>	<b>A</b>	・東京学芸大学…教職大学院連携協力校 ・武蔵野大学…教育インターンシップ受け入れ ・東京都立多摩科学技術高等学校…地域連携企画	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		今後とも、学力向上・不登校対応等の教育課題の解決のために、近隣大学、研究所等との連携を進めていく。他大学との新たな取組も積極的に進めていく。	

<b>38</b>		<b>学校と地域の連携事業の実施</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充
<b>B</b>	<b>S</b>	緑小学校をコミュニティ・スクール研究校に指定し、その成果を共有する。小・中学校全14校で地域との連携事業を実施した。	<input type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		緑小学校をコミュニティ・スクールとして指定し、今後拡充を図る。地域とのよりよい連携の在り方について、コミュニティ・スクールの理解啓発を図る。	

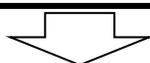
施策7 ICT環境の整備	担 当
<b>(15) ICT機器の整備</b>	学務課
施策内容と 目的・目標	学習環境の向上及び情報化への対応を推進するため、教育用ICT機器の整備が必要であり、機器の配備を継続的に実施することにより、充実したICT環境の下で学習する機会を提供する。 また、効率的な校務処理とその結果生み出される教育活動の更なる質の向上を図るため、校務用ICT機器の整備を図る。
事業展開と 令和元年度の 計画・目標 (Plan)	<b>39 教育用ICT機器の整備</b> 今年度整備する携帯型情報端末等の一層の活用促進、及び教師用インターネット接続パーソナルコンピュータ等の更改を行う。機器更改に併せて、インターネット接続環境のセキュリティ向上を図る。



令和元年度の 取組状況 (Do)	計画・目標に即して実施。 コンピュータ教室の有無も含めた全般的な検討について、学校教育部内全体での会議や、小金井市小・中学校ICT機器整備に関する検討委員会などで今後の方針を決定した。 令和元年度は、OSのサポート期限を迎えるパソコン教室のパソコンをリースアップし、各校40台ずつ携帯型情報端末を購入した。
施策の 進捗状況	充実したICT環境の下で学習する機会を提供するため、平成29年度予定された事業の実施により、教育用ICT機器の計画的な整備を図ることができている。今後も、定期的に携帯型情報端末を配備し、目標値に近づけて参りたい。

<b>39</b>		<b>教育用ICT機器の整備</b>	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
A	A	令和元年度にパソコン教室のパソコンがリースアップしたため、携帯型情報端末を導入した。昨年度に引き続き高度なセキュリティ対策を施したネットワークにこれらの端末を接続し、セキュリティ体制を強化できた。	
今後の方向性と改善策 (Action)		文部科学省の提唱するICT教育実現のため、令和5年度までに各校概ね3クラスに1クラス分程度の配備を進める。毎年、令和元年度と同程度の調達を継続することにより、令和5年度にはおおむね目標値を達成できる見込みである。	

施策8 学校施設		担当
<b>(16) 学校施設整備の推進</b>		庶務課
施策内容 と 目的・目標	<p>市内の学校施設は、耐震化の取組は終了したが、施設そのものの老朽化が進んでいる。</p> <p>今後の学校施設の在り方を視野に入れた学校施設の計画的・長期的な方針を検討し、学校施設の長寿命化を含めた整備計画を策定する。また、計画を実施する間、子どもたちの安全・安心な学校生活のため、必要な改修及び修繕を行いながら施設を維持する。</p> <p>そのため、学校施設の計画的・長期的な方針の検討、学校施設の長寿命化を含めた整備計画の策定、老朽化も踏まえた計画的な学校施設の改修を目指す。</p>	
事業展開 と 令和元年度の 計画・目標 (Plan)	<b>40 計画的・長期的な方針に基づく、長寿命化を含めた学校施設整備計画の策定</b>	
	個別施設毎の長寿命化計画（個別施設計画）の策定に着手する。	
	<b>41 トイレ整備事業</b>	
	小中学校各1校の整備工事を実施する。	



令和元年度の 取組状況 (Do)	40 個別施設計画策定の基礎となる、施設の老朽化状況の実態を整理する。 41 小中学校各1校において工事を実施した。
施策の 進捗状況	<p>学校施設整備計画の策定については、文部科学省から参考配布された様式の建物情報一覧表のうち、建物基本情報、構造躯体の健全性及び劣化状況評価の整理作業を完了した。</p> <p>トイレ整備事業については、計画どおり実施した。</p>

<b>40</b>		<b>計画的・長期的な方針に基づく、長寿命化を含めた学校施設整備計画の策定</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
A	A	他市の事例等の研究や文部科学省主催の講習会に参加し、策定方法について検討した。	
今後の方向性と改善策 (Action)		令和元年度は庁内関係部署と検討部会を開催するとともに、部会の下部組織である作業チームにおいて、学校施設の老朽化状況の実態把握の整理等を行い、受託業者へ基礎データを提供した。今後は整備レベルの設定や学校施設のあるべき姿を保護者アンケート、パブリックコメント等活用しながら検討していく。	

<b>41</b>		<b>トイレ整備事業</b>	
		自己評価 (Check)	今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
A	A	計画どおり、中学校1校の工事を実施した。	
今後の方向性と改善策 (Action)		中学校においては3校目となるが、改善要望の高い事業であるため、前倒しや事業量の増加について検討する。	

# 点検及び評価表（生涯学習）

## 1 概要

生涯学習では、小金井市教育委員会の基本方針及び「第3次小金井市生涯学習推進計画」に基づいた令和元年度教育施策を推進するための様々な事業を展開し、点検及び評価に当たっては、25事業を評価対象とした。

令和元年度については、全25事業中22事業についてB評価（概ね達成している。）以上と評価した。B評価以上の割合は全事業の88.0%となり、生涯学習における事業の更なる推進ができているものと評価できる。

前年度の評価結果と比較すると、1事業の評価が上がり、2事業の評価が下がった。具体的には、「49 おはなし会事業」については、通常のおはなし会に加え、職員による「スペシャルおはなし会」を実施するなど、事業の充実と参加者の増加に努めたことにより、CからB評価とした。

「59 古文書講座」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業を中止したため、BからD評価にした。「64 ボランティアセミナー」については、前年度のアンケート結果により、一講座の時間を1時間から2時間に変更し、講座内容を充実させたものの、講座数が減り、受講者数も減ってしまい、AからB評価にした。C評価は、前年度から1減の2事業となり、D評価は新たに1増の1事業となった。

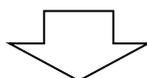
新型コロナウイルスの影響を受けたものの、総合的に考慮すると生涯学習に大きな問題なく推進できているものと考えられる。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大対策を講じながら、担当課を中心に、生涯学習事業の推進に取り組んでいくこととする。

## 2 評価結果総括

	事業数	S	A	B	C	D
(1) 学びに関する情報提供と相談体制の充実	1			1		
(2) 自主的な学習活動への支援	1				1	
(3) 施設の充実と有効活用の推進	4		3	1		
(4) 子どもの居場所づくり	1		1			
(5) 世代に応じた学習機会の充実	5			4	1	
(6) 多様な学習機会の提供	9		4	4		1
(7) 歴史に親しむ機会の提供	1		1			
(8) 地域人材・リーダーの育成と活用の促進	2			2		
(9) 生涯学習の市外との広域連携の推進	1			1		
合 計	25	0	9	13	2	1
内 訳 (%)		0.0%	36.0%	52.0%	8.0%	4.0%

### 3 評価表

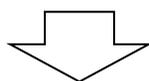
施策1 学びを豊かにする環境づくり		担 当
<b>(1) 学びに関する情報提供と相談体制の充実</b>		生涯学習課
施策内容と目的・目標	市や市民団体の情報発信において、提供方法の多様化や求める情報が簡単に探せる検索の容易さ等が求められるため、情報提供の充実を図るとともに情報を得ることのできる場の充実を図る。	
事業展開と令和元年度の計画・目標 (Plan)	<b>42 サークル案内</b> 本市における社会教育の振興を図るため、社会教育関係団体の登録を行う。社会教育関係団体の登録数120団体。ホームページ掲載方法の変更を行う。	



令和元年度の取組状況 (Do)	<p>社会教育関係団体の登録は3年ごととなっており、平成30年度から改めて登録申請をしてもらった。更新手続きのし忘れがないように、既存の団体には更新手続きの書類を送付したが、団体の人数が減り、活動が出来なくなった団体等もあり、登録団体数は更新前よりも少なくなった。令和元年度は、団体数が少し増加し、令和元年度末の社会教育関係団体登録数は105団体で、目標より15団体少なかった。</p> <p>今回の登録の時に新たに任意で提出してもらっている団体のPR用紙についても、引き続き窓口で閲覧してもらうほか、ホームページからも見られるようにしている。</p>
施策の進捗状況	社会教育関係団体登録数については、前年度から5団体増の105団体ではあったが、団体の名簿や団体のPR用紙等により、団体活動の周知を行っている。

<b>42</b>		<b>サークル案内</b>	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
<b>B</b>	<b>B</b>	サークル活動に興味がある人等に社会教育関係団体の周知を行った。社会教育関係団体の登録数は目標の120団体に概ね達した。	
今後の方向性と改善策 (Action)		社会教育関係団体に登録した場合の利点等についてまとめ、団体活動に興味を持ってもらえるよう周知方法についても更に工夫をしていく。	

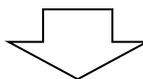
施策1 学びを豊かにする環境づくり	担 当
<b>(2) 自主的な学習活動への支援</b>	生涯学習課
施策内容と目的・目標	市民や団体などの生涯学習活動を支援するため、市役所・協力団体の職員などを派遣する出前講座の開催等を行う。
事業展開と令和元年度の計画・目標 ( Plan )	<b>43 まなびあい出前講座</b> 市民団体が主催する学習会に市役所等の職員を派遣する。 目標 実施回数55回、聴講者約1,000人



令和元年度の取組状況 ( Do )	毎年度、庁内及び協力団体に、出前講座の見直しをしてもらい、その内容を反映させた講座を開催している。2講座増加し、2講座削減したため合計75講座と昨年と講座数については変わらなかった。その他講座内容の一部の見直しを行った。 周知方法としては、市報及びホームページに掲載しているほか、公民館、図書館、集会施設等の市公共施設や小金井警察署、小金井消防署等の外部施設にも講座の案内チラシの設置を依頼している。
施策の進捗状況	講座の実施状況については、関係部署の協力を得て、希望される日時で実施できるように調整してもらい、概ね希望通りに実施されている。 全体的に実施回数が増えない状況が続いてはいるが、健康課と生涯学習課の講座は複数回開催されている。

<b>43 まなびあい出前講座</b>	
自己評価 ( Check )	
H30	R1
評価の説明 (成果と課題)	
<b>C</b>	<b>C</b>
市民や団体などの生涯学習活動を支援するため、市役所・協力団体の職員などを派遣する講座を開催した。開催回数は24回、聴講者数は588人で、2月後半からは新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により開催がなかった。 開催回数は増えていないが、一部の団体からは毎年度講座をご利用いただいている。	
今後の方向性と改善策 ( Action )	
特定の講座については、毎年度数回実施しているが、実施していない講座があるので、毎年度行っている講座内容の確認・見直し等続け新たな講座も加えていきたい。	

施策1 学びを豊かにする環境づくり		担当
<b>(3) 施設の充実と有効活用の推進</b>		公民館 図書館 生涯学習課
施策内容と 目的・目標	市民や団体などが生涯学習活動を行う場をより多く提供するため、公民館や図書館、集会施設などの既存施設の有効活用を促進するとともに、施設や設備の整備・充実を図る。	
事業展開と 令和元年度の 計画・目標 (Plan)	<b>4 4 公民館維持管理事業 (公民館)</b>	公民館の安全、安心、快適な施設環境を市民に提供するために、計画的に故障箇所を修繕し、整備を図る。
	<b>4 5 図書館維持管理業務 (図書館)</b>	利用者に安全で快適な読書環境を提供するため、図書館本館の外壁等改修工事を実施する。
	<b>4 6 総合体育館維持管理事業 (生涯学習課)</b>	総合体育館を市民のスポーツ・レクリエーション活動の場として供するため、指定管理者制度と協力し、効率的かつ経済的に管理運営する。また、個人・団体ともに利用しやすく、安全を確保するため、施設及び設備整備の充実を図る。
	<b>4 7 文化財センター維持管理事業 (生涯学習課)</b>	市指定文化財である旧浴恩館を郷土の歴史、民俗等資料の保管、展示を行う機能を持つ施設として、安全、快適な施設環境を市民に提供するため、必要な整備を行う。



令和元年度の 取組状況 (Do)	44 東分館、貫井南分館について部屋の間仕切りの修繕や工事を実施した。 45 本館外壁等改修工事を実施した（令和元年12月～令和2年3月）。 46 指定管理者の自主事業で、オリンピックを招いた水泳教室を実施し、施設整備では、大体育室空調設備設置及びトイレ改修工事等を実施 47 壁面が破損した外倉庫の修繕を実施（令和元年7月）、利用者の安全確保と景観の改善を図った。
施策の 進捗状況	44 令和元年度の維持管理に関する事業について予算化したものは、全て予定通り終了している。 45 今回の外壁等改修工事は、期間中騒音が発生した時期もあったが、事前に工事担当課と密なスケジュール調整を行い、例年行っている蔵書点検期間や通常の休館日を活用することで、臨時休館も行わず、図書館サービスを継続しながら工事を完了することができた。 46 施設運営について指定管理者を協力しながらスポーツを推進していく。施設整備は、今後数年にかけて修繕計画に基づいた改修工事を予定していることから、引き続き指定管理者等と連携しながら、改修計画を実行していく。 47 史跡である旧浴恩館を展示、収蔵施設に活用しているため、将来に向けて諸課題を抱えてはいるが、必要に応じた修繕の実施により現状の機能を維持している。

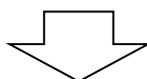
4 4		公民館維持管理事業	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	
A	A	東分館、貫井南分館について部屋の間仕切りの修繕や工事を行い、利便性を向上させることができたため。また、要望の多かった東分館和室の畳を修繕し、良好な施設環境を提供できたため。	
今後の方向性と改善策 (Action)		公民館の維持管理に必要な保守点検及び整備を適宜行いながら、同時に、施設の長寿命化を踏まえた維持管理計画の策定が必要である。利用者の利便性等を向上させ、既存施設を長く活用するため、維持管理計画に基づく施設全体の包括的な修繕が求められる。	

4 5		図書館維持管理業務	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	
A	A	図書館本館の外壁等改修工事を実施したことで、市民誰もが安心して利用できる公共施設の環境を提供できるようになった。	
今後の方向性と改善策 (Action)		本館施設・設備の維持に係る改修工事を進めているが、引き続き利用者の安全性を確保するために老朽化が進んだ箇所のうち、改修の緊急性が高い箇所から今後も工事担当課等と調整を図りながら順次対応していく。	

4 6		総合体育館維持管理事業	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	
A	A	総合体育館大体育室に新規に冷暖房設備を設置し、トイレを一部洋式化改修する等、スポーツ施設の環境改善を図ることができた。	
今後の方向性と改善策 (Action)		施設運営は、指定管理者と協力し、延期となった東京 2020 大会を見据えたイベント等の実施を検討する。施設整備は設備の老朽化が進んでいることから、平成 30 年度に策定した修繕計画に基づいて、計画的に改修を行い、予防保全を行っていく。	

4 7		文化財センター維持管理事業	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	
B	B	壁面が破損した外倉庫の修繕実施により、利用者の安全確保及び景観の改善が図られた。	
今後の方向性と改善策 (Action)		引き続き、郷土の歴史を身近に感じてもらうため、関心を呼び込む工夫や検討を行いたい。現在の木造施設では文化財等を収蔵する上で必要な機能の整備が不可能であることから、文化財所蔵施設を耐火建築物に替える方策を検討する必要がある。	

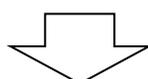
施策2 学びを通じた人づくり		担 当
<b>(4) 子どもの居場所づくり</b>		生涯学習課
施策内容と目的・目標	子どもの安全な居場所づくりとして現在ある児童館、児童公園、図書館等に加えて、各小学校で放課後子ども教室を実施し、放課後の安全な居場所づくりを行うとともに、市立小中学校の開放や市内大学との連携による施設利用を進める。	
事業展開と令和元年度の計画・目標(Plan)	<b>48 放課後子ども教室</b> 放課後子ども教室、学校、学童の連携を強化するため、昨年度4校で実施した協議会を令和元年度は全9校で実施する。協議会の実施により放課後子ども教室の一体型6校、連携型3校を整備。 目標は参加人数33,500人、実施回数880回。	



令和元年度の取組状況(Do)	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度実績：参加人数 33,018 人（小中学生）、実施回数 837 回。</li> <li>全9小学校で放課後子ども総合プラン協議会を開催し、学校・学童・放課後子ども教室の連携を深めた。</li> </ul>
施策の進捗状況	学校、学童、放課後子ども教室の3者による協議会実施への調整ができ、平成30年度から先行4校で協議会を実施することになった。令和元年から5校で協議会を実施することで、一体型6校、連携型3校を整備するという当初の目標は達成となる。

<b>48</b>		<b>放課後子ども教室</b>	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
<b>A</b>	<b>A</b>	全9校で協議会を開催することができた。また、本町小学校においては、10月から週5日開催を始めることができ、参加者数、実施回数も概ね目標を達成した。	
今後の方向性と改善策 (Action)		全9校で協議会を開催し、連携を深め情報を共有しながら、放課後の児童の安全安心な居場所づくりについて、さらに内容を充実していく。	

施策2 学びを通じた人づくり	担当
<b>(5) 世代に応じた学習機会の充実</b>	図書館 生涯学習課
施策内容と 目的・目標	子どもから高齢者まで様々な世代の市民に向けて、より多くの学習機会が提供できるように努めて次世代を担う子どもや青少年の育成等の学習機会の充実を図る。
事業展開と 令和元年度の 計画・目標 (Plan)	<b>49 おはなし会事業 (図書館)</b> 児童に対する読書活動の推進を図るため、「おはなし会」を実施する。本館は毎週水曜日のほか、赤ちゃん向けおはなし会を隔月で実施する。緑分室は月1回、東は赤ちゃん向け及び幼児向けおはなし会を原則隔月で実施する。貫井北分室は月3回、緑分室は月1回土曜日に開催する。各館で、参加者を増やす仕組みを検討、実施し、1,700人の参加を目標とする。
	<b>50 青少年のための科学の祭典 (生涯学習課)</b> より多くの青少年に科学の楽しさ、不思議さを体験してもらうとともに、中学生として参加してもらうことで社会体験してもらう。来場者数9,000人、中学生ボランティア50人を目指す。
	<b>51 家庭教育学級 (生涯学習課)</b> 家庭教育の諸問題、家族関係、子どもの健康や遊び、文化等をテーマとした講座・講演・イベントを各校1回の14回企画・実施し、参加者数2,800人を目指す。
	<b>52 少年自然の家維持管理事業 (生涯学習課)</b> 少年自然の家(清里山荘)を自然の中で気軽に利用できる親しみのもてる施設、安全で利用しやすい施設とすることを基本として、指定管理者制度を導入し、効率的、経済的に管理運営する。利用者数7,500人を目指す。
	<b>53 シニア世代のための地域参加講座 (生涯学習課)</b> 定年退職をされた方等に、地域活動を知ることができる講座等を実施することにより、地域活動に参加するきっかけを作ること为目标とする。講座参加者数200人を目指す。



令和元年度の 取組状況 (Do)	49 延べ開催回数99回、延べ参加者人数 計1,581名(本館46回・718名、東分室9回・138名、緑分室13回・413名、貫井北分室31回・312名) 50 来場者数7,800人、中学生ボランティア21人 51 12小中学校で実施。参加者人数2,398人 52 市内施設利用者5,595人、市外施設利用者1,588人、合計7,183人 53 全7回開催、参加人数112人
施策の 進捗状況	49 緑分室では、「スペシャルおはなし会」を実施した。 50 来場者は台風予想もあり例年より減っているが、事業は滞りなく実施できた。中学校の定期テストや部活動の試合等の関係もあり、中学生ボランティアの応募者が少なくなっている。 51 全学校で事業を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で2校実施できなかった。 52 施設利用者数は台風の襲来や新型コロナウイルス感染症での取りやめが多くあったが昨年度よりも若干増えている。利用者の増加に向けて、施設の周知や施設の整備の充実に努めた。 53 地域活動への興味を持ってもらうような講座を企画・実施しながら、参加者を増やしていく。

<b>49</b>		<b>おはなし会事業</b>	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	
<b>C</b>	<b>B</b>	<p>新型コロナウイルスの影響により、2月下旬からおはなし会が中止となったため、実施回数は減少したが、参加者数は前年度より増加した。目標には到達しなかったが、緑分室では、通常のおはなし会に加え、職員による「スペシャルおはなし会」を3回実施し56人が参加した。</p>	
今後の方向性と改善策 (Action)		<p>緑分室でも新しいおはなし会事業が始まり、地域の特性に応じたおはなし会が出来るようになった。令和2年度は、ホームページもリニューアルしたため、おはなし会やイベントの情報発信を積極的に実施していく。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 拡充</li> <li><input type="checkbox"/> 継続 (現状維持)</li> <li><input type="checkbox"/> 見直し (手法等)</li> <li><input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)</li> </ul>			

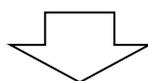
<b>50</b>		<b>青少年のための科学の祭典</b>	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	
<b>B</b>	<b>B</b>	<p>科学の面白さ、楽しさを青少年に体験してもらうために、教育機関や地域の団体が協力し、事業を実施した。ブースは88ブース出展し、来場者数は7,800人であった。当日、台風の予報が出ていたため、例年のよりは出展ブース数、来場者数は減っているが、来場者は楽しんでいる様子であった。また、中学生の社会参加のためにボランティアを募り、21人が各ブースで説明等を行った。事業の開催時期が中学生の定期試験や部活動の大会等と重なってしまい、目標人数に達してはいないが、参加した中学生へのアンケートを見ると、人と接することの充実感や人に喜んでもらう楽しさを感じることができた等の感想が今回も多くあった。</p>	
今後の方向性と改善策 (Action)		<p>出展ブースも90前後あり、来場者も7,000人を超える事業であるため、関係者の負担も大きくなっている。ここ数年分担を見直す等行っているが、引き続き事業を継続できるよう協力して進めていく必要がある。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 拡充</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持)</li> <li><input type="checkbox"/> 見直し (手法等)</li> <li><input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)</li> </ul>			

<b>51</b>		<b>家庭教育学級</b>	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	
<b>B</b>	<b>B</b>	<p>各市立小・中学校ごとに、家庭教育の諸問題、家族関係、子どもの健康や遊び、文化等をテーマとした講座・講演・イベント等を企画・実施し、12校で講座等を開催した。各校様々な企画運営により、2,398人の参加があり、概ね目標を達成した。</p>	
今後の方向性と改善策 (Action)		<p>それぞれの学校でどのような企画を行うかを検討する段階で、過去に行われた他の学校の講座や、東京都等からの講師派遣可能なリストの提供等を行っているが、今後も情報提供できるものを増やしていきたい。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 拡充</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持)</li> <li><input type="checkbox"/> 見直し (手法等)</li> <li><input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)</li> </ul>			

5 2		少年自然の家維持管理事業	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	
B	B	<p>大浴室内壁の改修等を行い、施設の維持管理に努めた。また、利用者サービスの向上のため、食事の見直しやバーベキュー広場の整備等を行った。施設利用者数は台風や新型コロナウイルス感染症等で利用を取りやめる人も多かったため、想定よりは減ってしまったが、昨年度よりは若干増加して7, 183人であり、概ね目標は達成した</p>	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		<p>令和元年度の利用者数は前年度から微増であったが、令和元年度から指定管理者が代わり、施設の周知や施設の設備の工夫等を行い利用者の増加に向けて取り組んでいる。今年度は新型コロナウイルス感染症の感染予防等の対策を行うなど、より適切な施設の維持管理が必要となる。</p>	

5 3		シニア世代のための地域参加講座	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	
C	C	<p>参加者のアンケートによる講座の評価はよいものとなっているが、参加者は112人であった。なお、開催日が雨天の日に欠席者が多い傾向であった。</p>	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input checked="" type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		<p>アンケート結果等もふまえて、今後も様々な団体に講座のご協力を頂きながら、さらなる講座内容の充実に努め、より多くのシニア世代の地域参加に向け取り組んでいく。</p>	

施策2 学びを通じた人づくり	担当
<b>(6) 多様な学習機会の提供</b>	図書館 公民館 生涯学習課
施策内容と 目的・目標	市民が障害の有無や経済状況、国籍などの事情によらずに参加できる学習機会の提供に努めるとともに、多様な人々への理解を深める学習活動を展開し、豊かな心の育成を図る。また、文化芸術、スポーツなど、市民文化の育成や健康づくりにつながる学習機会の充実に努める。
事業展開と 令和元年度の 計画・目標 (Plan)	<b>54 貸出サービス事業 (図書館)</b>
	図書館の利用促進を図るため、貸出冊数の増加に努める。平成30年度は住民一人当たりの図書貸出冊数が7.9冊まで回復したので、今年度は平成26年度の8.1冊を目標とする。団体貸出については平成29年度検討、平成30年度試行を経て、本年度より、団体貸出パックを本実施する。
	<b>55 ITサポート事業「こがねいパソコン相談室」 (公民館)</b>
	市民のデジタル・ディバイド(情報格差)の解消を図るため、個人のパソコン操作に伴うスキルアップやパソコンに関する具体的な問題について解決する。年間相談回数460回、延相談者数1,000人
	<b>56 市民が作る自主講座 (公民館)</b>
	市民による幅広い内容の講座を実施できるよう支援する。あわせて自主グループ化を目指す。市民の自主的な学習意欲を喚起・保障するとともに、学習範囲を広げる。一般部門10講座、男女共同参画部門9講座、計19講座、延参加者数900人
	<b>57 青年国際交流講座「生活日本語教室」 (公民館)</b>
	参加者の日本語による日常会話の技術向上、参加者同士及びスタッフとの交流並びにイベント開催による日本文化への理解促進。年間45回、延参加人数1,000人、延ボランティアスタッフ900人
	<b>58 市史編さん活動 (生涯学習課)</b>
	令和2年度以降の市史、歴史資料の刊行計画を検討する。小金井市の歴史を学術的に振り返る基礎資料の収集、整理を継続して行い、小金井市史編纂資料第59編を刊行する。
<b>59 古文書講座 (生涯学習課)</b>	
市史通史編については、旧石器時代から平成元年頃までの小金井市の歴史について纏めたもので平成30年度に刊行したところであり、通史編を活用した講座を行うことで、市民に小金井の歴史をより身近に感じてもらう。	
<b>60 体育協会・総合型地域スポーツクラブ補助事業 (生涯学習課)</b>	
婦人子供スポーツ大会参加者数 1,200人、各種共催大会参加者数 7,400人、卓球教室参加者数 1,700人、テニス大会参加者数 290人	
<b>61 スポーツ開放・学校開放事業 (生涯学習課)</b>	
スポーツ開放校参加者数 3,300人、土曜スポーツクラブ参加者数 330人、一中クラブハウス 9,200人、南中テニスコート 70人、プール無料開放 3,400人	
<b>62 市民体育祭 (生涯学習課)</b>	
延べ参加者数6,600人	



令和元年度の 取組状況 (Do)	54・住民1人当たりの図書貸出冊数 7.5冊 団体貸出(学級文庫) 延104団体 23,548冊 団体貸出(その他) 延78団体 4,951冊 ・障害者用図書貸出 デイジー図書(47タイトル) ・宅配サービス 218点(本130冊・CD88点)
令和元年度の 取組状況 (Do)	55 多くの市民のパソコン相談に応じることができ、パソコン操作のスキルアップ、パソコンに関する具体的な問題の解決が図られた。(年間相談回数422回、延相談者数937人) 56 前年度に比べ講座数は減ったが、延参加者数は増えた。企画の内容としては、公民館利用に関するものや地域の環境問題、趣味などの日常を豊かにするものといった幅広い講座を実施できた。(一般部門9講座、男女共同参画部門7講座、計16講座。延参加者数723人)
令和元年度の 取組状況 (Do)	57 年間39回実施、延参加人数1,242人、延ボランティアスタッフ949人 58 小金井市史編纂資料第59編刊行 59 年間4回実施、延参加数126人を予定していたところ中止。 60 婦人子供スポーツ大会参加者数1,079人、各種共催大会参加者数6,151人、卓球教室参加者数1,561人(ティーボール大会は雨天中止) 61 スポーツ開放校参加者数3,580人、土曜スポーツクラブ参加者319人、一中クラブハウス9,397人、南中テニスコート140人、プール無料開放3,689人 62 延べ参加者数6,678人
施策の 進捗状況	54 新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館の影響により、住民1人当たりの図書貸出冊数が減少した。また、小学校全学年分の団体貸出パックを作成・貸出を実施した。 55 継続的に実施することで、市民のパソコンのスキルアップにつながり、事業は順調に進んでいる。 56 前年度に比べ講座数は減ったものの、延参加者数は増加した。また、幅広い分野での講座を実施でき、事業は順調に進んでいる。 57 参加者の日本語による日常会話の技術向上、参加者同士及びスタッフとの交流並びにイベント開催による日本文化への理解が促進しており、事業は順調に進んでいる。 58 令和2年度以降の市史、歴史資料の刊行計画を検討、作成した。 59 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開催中止とした。 60 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止により中止となった事業があった。 61 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止により中止となった事業があったため、前年度と比較し参加者数減少した事業が多い。土曜スポーツクラブについては、実施会場である総合体育館改修による臨時休館等の影響も受けた。 62 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、1種目が中止となり延べ参加者数は減少したが、実施種目については前年度とほぼ横ばいであった。

5 4		貸出サービス事業	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	
B	B	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館の影響により、貸出冊数が減少した。</p> <p>本館では団体貸出パックを小学校全学年分作成し、本館を利用した97クラス中、72クラスが団体貸出パックを利用した。</p> <p>デイジー図書の貸出は減少しているが、宅配サービスの利用が前年度に引き続き増加した。</p>	
今後の方向性と改善策 (Action)		<p>令和2年度も新型コロナウイルスの影響が続くため、感染拡大防止とサービスの維持を両立できるよう、状況に合わせた対応を行う。</p> <p>また、団体貸出パックについては、利用したクラスの反応を見ながら、内容・冊数の見直しを検討していく。</p>	
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)			

5 5		ITサポート事業「こがねいパソコン相談室」	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	
A	A	<p>相談のレベルが着実に上がってきていると感じる。継続的に実施することで市民のパソコンのスキルアップにつながると思われる。</p>	
今後の方向性と改善策 (Action)		<p>情報機器が進歩しており、市民のITに対するスキルアップが図られことで、セキュリティに関する意識もあがることが期待できる。今後も継続的に実施する必要がある。</p>	
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)			

5 6		市民が作る自主講座	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	
A	A	<p>市民目線での、講座が実施出来、受講者も満足する専門的な内容で開催が出来ている。また、新たな受講者も増えて来たと感じる。</p>	
今後の方向性と改善策 (Action)		<p>日常的に活動しているサークルからの開催要望が多く、新たなメンバーを発掘することでサークル育成にも繋がっている。また新たな活動展開が出来るので、次年度以降も継続して実施することが望ましい。</p>	
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)			

<b>57</b>		<b>青年国際交流講座「生活日本語教室」</b>	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	
<b>A</b>	<b>A</b>	<p>参加者の日本語の日常会話の技術向上及び参加者同士及びスタッフとの交流並びにイベント開催による参加者の日本文化への理解を促進した。</p> <p>令和元年度の目標値(年間45回、延参加人数1,000人、延ボランティアスタッフ900人)に対して、年間39回、延参加人数1,242人、延ボランティアスタッフ949人の結果となった。</p>	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		令和元年度に向けて、引き続き、市民生活に必要な日本語の日常会話の学習や各種イベントを開催し、公民館を活用した外国籍市民との国際交流事業として前年度実績程度を目標に継続する。	

<b>58</b>		<b>市史編さん活動</b>	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	
<b>A</b>	<b>A</b>	<p>市史編纂資料第59編の刊行、さらに小金井市史刊行記念講演会(参加者数70人)を開催したことで、市史編さん活動成果を市民に提供できた。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		令和2年度以降の市史史料の刊行計画を検討し、「通史編」の刊行の際に取り残した年表、索引の作成及び市史ダイジェスト版、子ども対象の市史の作成に向けた計画的な刊行スケジュールを作成。今後も史料情報を継続して発信していく予定である。	

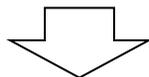
<b>59</b>		<b>古文書講座</b>	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	
<b>B</b>	<b>D</b>	<p>市史通史編刊行を記念し、編集委員4名の講師が各時代の小金井の特徴、魅力を発信する特別講座の内容であったが、新型コロナウイルスの感染拡大予防のため事業を中止した。</p>	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input checked="" type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		古文書に興味のある方へ基礎知識の習得を支援するとともに、今後も継続していく予定。受講後、古文書に興味をもった方は自主グループへ参加する流れとなるので、市史編纂資料の作成に協力して下さる人材発掘、育成の機会としての意味合いもある。	

<b>60</b>		<b>体育協会・総合型地域スポーツクラブ補助事業</b>	
自己評価（Check）			今後の事業展開
H30	R1	評価の説明（成果と課題）	
<b>B</b>	<b>B</b>	各団体への補助内容を詳細に確認し、精査した。新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止となった事業があったため、昨年度より参加者数が減となった。市民ニーズや参加者数に注視し、各団体に事業の見直し等の働きかけを行っていく。	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（現状維持） <input type="checkbox"/> 見直し（手法等） <input type="checkbox"/> 廃止（縮小）
今後の方向性と改善策（Action）		各団体の役割に応じた事業実施、補助金額の妥当性について、定期的に確認・見直しを図りながら団体の活動に対して補助をしていく。	

<b>61</b>		<b>スポーツ開放・学校開放事業</b>	
自己評価（Check）			今後の事業展開
H30	R1	評価の説明（成果と課題）	
<b>B</b>	<b>B</b>	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止等の影響を受け事業の中止があったが、おおむね目標を達成している。年々参加者が減少している事業については、参加者数の確保のため、施設や利用団体との調整、開放日数確保等が課題である。	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（現状維持） <input type="checkbox"/> 見直し（手法等） <input type="checkbox"/> 廃止（縮小）
今後の方向性と改善策（Action）		児童・生徒の安全確保及び通常の学校教育活動の再開を最優先とするため、新型コロナウイルス感染症に対する対策を十分に講じた上で、引き続き学校や利用団体との連携を図っていく。	

<b>62</b>		<b>市民体育祭</b>	
自己評価（Check）			今後の事業展開
H30	R1	評価の説明（成果と課題）	
<b>B</b>	<b>B</b>	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため1種目が中止となったが、参加者数はほぼ横ばいであった。さらなるスポーツ振興のため、関係団体との面接等により、情報共有と問題点の把握、改善策等の検討を行った。	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（現状維持） <input type="checkbox"/> 見直し（手法等） <input type="checkbox"/> 廃止（縮小）
今後の方向性と改善策（Action）		引き続き関連団体との連携を密にとり、より良い大会の実施に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症に対する対策も検討し、市民が安全に参加できる大会の実施に向け、検討する必要がある。	

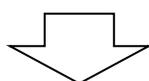
施策3 学びを活かしたまちづくり		担 当
<b>(7) 歴史に親しむ機会の提供</b>		生涯学習課
施策内容と目的・目標	「玉川上水・小金井桜整備活用計画」（平成22年3月策定）に基づき、関係機関、市民と協働で史跡玉川上水及び名勝小金井（サクラ）のよりよい整備活用を図る。	
事業展開と令和元年度の計画・目標（Plan）	<b>63 名勝小金井（サクラ）復活プロジェクト</b> 市民協働でヤマザクラを補植するとともに、小金井（サクラ）整備区間におけるサクラ並木復活事業の検証をおこなう。周知強化を図るため、PR冊子等を頒布する。	



令和元年度の取組状況（Do）	小金井橋・新小金井橋整備区間の3年目の整備として、東京都及び市民団体と連携し、26本のヤマザクラを補植した。前年度に刊行したPR冊子・クリアファイルを引き続き頒布し周知の強化を図った。
施策の進捗状況	東京都等と連携しヤマザクラの補植ができ、周知も強化できたことで事業としては、順調に進んでいると思われる。

<b>63</b>		<b>名勝小金井（サクラ）復活プロジェクト</b>	
自己評価（Check）			今後の事業展開
H30	R1	評価の説明（成果と課題）	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（現状維持） <input type="checkbox"/> 見直し（手法等） <input type="checkbox"/> 廃止（縮小）
<b>A</b>	<b>A</b>	小金井橋から新小金井橋整備区間3期目は、関係機関や市民と協働でヤマザクラの補植等を実施した。合わせてPR活動も強化することで、史跡玉川上水及び名勝小金井（サクラ）の整備及び周知の推進を図ることができた。	
今後の方向性と改善策（Action）		サクラ並木の整備については、計画的に補植を進めていく。市境周辺のサクラ並木は東京都・他市と協力しながら事業を行っていく。本事業の意義について広く市民に周知を図り、理解を得るよう努める。	

施策3 学びを活かしたまちづくり		担 当
<b>(8) 地域人材・リーダーの育成と活用の促進</b>		生涯学習課
施策内容 と 目的・目標	市民の求める様々な学習形態や内容に応えるため、地域で生涯学習を支える人材の育成と積極的な活用を図るとともに、活動をけん引するリーダーの育成に努める。	
事業展開 と 令和元年度の 計画・目標 (Plan)	<b>64 ボランティアセミナー</b> 小平市、国分寺市、小金井市、東京学芸大学と連携し、コーディネーターや学習アドバイザーなどのボランティアを養成する講座を開催する。 受講者数160人	
	<b>65 スポーツ推進委員事業</b> 学校連携事業や市主催事業への協力等を通して、地域のスポーツ活動を推進していく。また、障がい者スポーツ指導員(初級)資格取得13人(50%以上)を目指し、研修等への目標参加人数は116人(平成30年度(前年度実績)とする。	

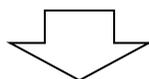


令和元年度の 取組状況 (Do)	ボランティアセミナーでは、小平市、国分寺市、小金井市、東京学芸大学と連携し、各市で必要と考える講座を企画し、実施した。受講者数は、101人であった。前年度のアンケート結果により、内容を充実させるため、一講座の時間を1時間から2時間に変更し、講座数を減らした。 スポーツ推進委員事業では、ニュースポーツ出前教室として各学校へ指導員派遣を行った。障がい者スポーツ指導員(初級)資格取得者は増加し、研修への参加者は延べ92人であった。
施策の 進捗状況	講座受講人数は目標人数に達していた昨年度より減ってしまったが、ボランティアセミナーを受講した人が、継続してあるいは新たにボランティア等に参加してもらえるように努めていく。 スポーツ推進委員事業は、今後も学校連携事業等を継続していく。障がい者スポーツ指導員(初級)の資格取得、研修等への参加についても積極的に推奨していく。

<b>6 4</b>		<b>ボランティアセミナー</b>	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	
<b>A</b>	<b>B</b>	小平市、国分寺市、小金井市、東京学芸大学と連携し、各市で必要と考える講座を企画し、実施したところ受講者数は101人であった。放課後子ども教室での子どもの活動を支えるボランティアの育成を目的の講座を開催したが、参加者が少なかった。	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		今後も受講者のアンケートや、前年度の受講内容、受講者数を参考にしながら、その年度の講座内容を検討し、広報についても見直す。	

<b>6 5</b>		<b>スポーツ推進委員事業</b>	
自己評価 (Check)			今後の事業展開
H30	R 1	評価の説明 (成果と課題)	
<b>B</b>	<b>B</b>	資格取得率が48%、研修への参加数が93人であり、目標に達しなかったものの、学校でのスポーツ教室等、積極的な活動を行った。	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
今後の方向性と改善策 (Action)		市事業等への協力の他、委員の自主事業を推進していく。また、障害者への指導の支援のため、研修等を通して障がい者スポーツ技術・指導力の向上を目指す。	

施策4 学び合いのネットワークづくり		担 当
<b>(9) 生涯学習の市外との広域連携の推進</b>		図書館
施策内容と目的・目標	多様化・高度化する利用者ニーズに応えるために、市外の図書館等と連携を図っていく。	
事業展開と令和元年度の計画・目標 ( Plan )	<b>66 広域連携</b> 近隣市の図書館との相互利用の拡充及び、大学図書館利用の推進に努める。	



令和元年度の取組状況 ( Do )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京農工大学図書館（小金井、府中） 延べ利用件数 131件</li> <li>・東京経済大学図書館 延べ利用件数 72件</li> <li>・紹介状発行 8件</li> </ul> <p>大学図書館の利用について、図書館のホームページで周知し、利用の促進に努めた。</p>
施策の進捗状況	東京農工大学図書館、東京経済大学図書館の利用は順調に増加している。農工大学図書館は、夏季期間中は市内高校生に学習室の開放も実施している。近隣市の図書館との相互利用拡充については、引き続き努めていく。

<b>66</b>		<b>広域連携</b>	
自己評価 ( Check )			今後の事業展開
H30	R1	評価の説明 (成果と課題)	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 見直し (手法等) <input type="checkbox"/> 廃止 (縮小)
<b>B</b>	<b>B</b>	近隣市の図書館との連携に努めた。	
今後の方向性と改善策 ( Action )		小金井市民が大学図書館や近隣市の図書館を直接来館して利用できるようななど、相互連携体制を整えていくためには、長期的な視点で取り組んでいく必要がある。また、大学 (学生) の強みを図書館事業に活用できないか引き続き検討を重ねていく。	

## 令和2年度 点検及び評価に係る学識経験者の意見

小金井市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項及び小金井市教育委員会の事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の実施に関する要綱に基づき、令和2年度(令和元年度評価分)における小金井市教育委員会の点検及び評価を実施するに当たり、学識経験者から御意見をいただきました。

### 鈕持 勉 委員 (元帝京大学・帝京科学大学教授)

#### 1 各事業に対して

様々な事業がコロナの影響があり、順調な事業になっているとは言い切れない。しかし、学校教育、生涯学習において児童・生徒に対して魅力ある学校づくり、市民目線で全世代型の啓発にも意欲的である。今後のコロナ対策が各事業の停滞や低下にならない創意工夫をしていくことが使命となる。

#### 2 学校教育関係

- (1) 教員研修などの充実に期する必要性がある。コロナの影響で教員の資質の課題、特に若手教員の資質についての停滞なども考えられる。その結果として学校差・学力差が顕著に出ていないか十分に把握してコロナ禍においても推進しなければなりません。

新学習指導要領完全実施の小学校、並びに来年度に完全実施となる中学校での主体的・対話的で深い学びがどの程度達成されているかを把握して、極力影響の出ない方策を出して日々の授業の充実に期待したい。with コロナの中での推進にも待ったなしである。

- (2) 各職層に対するレベルアップが図れているか、管理職のマネジメント力が遺憾なく発揮されているか、人材育成が滞っていないか細心の注意を払う必要がある。特に、主任層の力量発揮の場をどのように位置づけていくか行政の手腕と各校の発想・着想・構想の段階の工夫が欠かせない。また、来期の初任者は教育実習なしの学生等が考えられ、今から初任者研修の在り方を事前指導などで学校教育の実情を周知して教壇に立てるよう配慮する必要がある。
- (3) 次年度への要望として、2022年度をメドにして小学校高学年の教科担任制が導入される見込みである。その実施に向けての準備を段階的に進めていくことが重要である。教科の専門性、進路指導の力量、学級経営力、児童理解の高まりが最優先課題となる。また、学校の人的措置が適正に実施されるよう行政からの働きかけを願いたい。

### 3 生涯学習関係

- (1) コロナ禍において図書館事業ほど脚光を浴びたことはない、学びの場の確保として市民が求めていたことが改めて認識ができたと判断できる。今後、全世代型の読書活動の推進に向けて啓発活動をしていくことが不可欠となる。また、子どもの居場所としての放課後子ども教室や、校庭開放も大きな役割を果たすことが求められている。児童・生徒の居場所を様々な角度から検証して市民の総意に基づいた諸事業を期待したい。

### 4 まとめ

コロナ禍の中での事業の推進をしていくためにも、最大限感染症対策を優先しつつ、前に進めていく行政でなくてはならない。「〇〇しない」対策ではなく、「こうすればできる」道筋を各事業で展開して小金井市の学校教育、生涯学習の推進をしていってもらいたい。

## 腰越 滋 委員（東京学芸大学 准教授）

今回評価の令和元年度は、「第2次 明日の小金井教育プラン(平成28年度から令和2年度まで)」及び「第3次 小金井市生涯学習推進計画」の、それぞれ4年度目ということになる。従前と同様、前年度との比較の観点を中心に据え、議論を展開したい。

まず「学校教育」であるが、前回43項目から今回は41項目が、点検及び評価対象項目となっている(前回項目の「40. 校務用ICT機器の整備」と「42. 非構造部材整備事業」は、整備完了のため割愛されたものと思料する)。コロナウイルス感染防止対策として、令和2年3月2日からの市内全小・中学校で臨時休校の対応をせざるをえなかったにも拘わらず、その影響下においても、評価がC・Dに下降する項目が無かったことは喜ばしい。

ここではひとまず、変動が見られた評価項目について言及すると、「20. いじめ、不登校等に対する組織的な教育相談の実施」がSからAに戻った理由が不分明であった。というのは、前回と今回の記載内容が全て同一だったからである。評価が下がるのが悪いわけではなく、変動理由①の記載があった方が分かりよいのではなかろうか。

逆に理由記載が見られたのは、BからSにランクアップした「38. 学校と地域の連携事業の実施」である。緑小学校がコミュニティ・スクール研究校に指定されたことが大きいと分かったが、その活動内容が少しでも伝わるような記載があるとよいのではないか。紙幅の都合があるのであれば、最終閲覧日を記載した上で、URLを紹介しておく等の手立ては考えられよう。

([http://www.koganei.ed.jp/~midories/4\\_comschool/comschool.html](http://www.koganei.ed.jp/~midories/4_comschool/comschool.html) ;

最終閲覧日 2020 年 10 月 16 日)。

全体に報告書の表記の形式が固定化しているのは、やや残念だ。勿論、記載内容を変えすぎると全体の調和を損なうというデメリットはあるのかもしれない。だが、例えば「38. 学校と地域の連携事業の実施」などでより肝要と思われるのは、連携事業の内容を評価することなのではないか。WEB サイトには([http://www.koganei.ed.jp/~midories/4\\_comschool/image/cs\\_panph-2.png](http://www.koganei.ed.jp/~midories/4_comschool/image/cs_panph-2.png);最終閲覧日 2020 年 10 月 16 日)、コミュニティスクールの概念図の説明もあるようなので、次年度以降は多少なりとも連携事業の内容評価についても言及してみてもどうか。というのは、内容を見ることで、例えば上記の「20. いじめ、不登校等に対する組織的な教育相談の実施」が評価を下げた理由なども、より説得的なものとして読者に伝わるだろうからである。

続いて、「生涯教育」の各事業について言及する。概要(38頁)にあるように、「49. おはなし会事業」がCからB評価に上がる一方で、「59. 古文書講座」がBからD評価に、「64. ボランティアセミナー」はAからB評価に、それぞれ下がっている。このうち「59. 古文書講座」はコロナ禍での事業中止なので不可避的な事態と見做すとしても、「64. ボランティアセミナー」はやや残念な結果であった。東京学芸大学に奉職しながら、学生の参加状況を知らない自身の反省もあるが、令和2年度事業評価などを睨むと、オンライン開催もありうるのではなからうか。コロナ禍での制約もさることながら、受講者数が評価の指標(インディケータ)とされるのであれば、オンライン実施は1つの突破口にはなる。というのは、宣伝さえ巧く行えば、オンラインで受講者数を増やすことは、対面よりは遙かに容易だと思料されるからである。

総じて、令和元年度末からのコロナ禍で、教育現場も予想だにできなかった対応を強いられているわけであるが、これを好機とみる考え方もあってよいのではないだろうか。言うは易く行うは難しであることを承知しつつ、敢えて書かせて頂くと、AR②(Augmented Reality; 仮想現実[感])やVR(Virtual Reality; 人工現実[感])の持つ可能性を含めて、次年度以降の教育施策を講じていく局面(フェイズ)に入ってきた、ということなのではないか。即ち「with コロナ時代」の教育現場で、どういう施策をうてるのかを考えてみる必要はあるということだ。

無論各家庭のPC環境などに差があり、教育格差の拡大が喧伝されるリスクは孕む。だが、新聞報道などによると、不登校の児童・生徒がオンラインなら授業参加できるようになるなどの、当初思いもよらなかった事態も生起している。

前年度のコメントで、「society5.0③の時代に突入したといわれる社会に、いちはやく教育現場が対応しようとしていることを示すこと」と書かせて頂いたが、これがより現実味を帯びているのが、令和元年度末からの世界が、パンデミックの状態に置かれた現況と言えよう。その中でも文教

地区と目される小金井市にあっては、手立てを講じていけないのではないか。

先に、P C環境の差が教育格差の拡大を生むリスクについて言及したが、携帯端末に関しては親の社会経済的地位(S E S ; Socio-economic Status)に関わりなく、子ども達の所持率が上がっていくことが予測される。と同時に、5 Gと呼ばれる「携帯端末で利用される第5世代移動通信システム」が、ここ数年の後には汎用化されるものと予測される。すると、オンライン授業参加を携帯端末から行う大学生や高校生はもとより、これが義務教育段階の児童・生徒にまで広がる可能性は否定できない。

そうしたことをも見据えながら、対面式とオンラインでのバランスを考えた、いわば不易流行を視野に入れた教育施策を策定していくことが求められているのではあるまいか。

<注>

- ① 2020年10月16日(金)の市教委点検・評価等会議において、不登校者数増加が評価ダウンの理由との説明を受けて分かった。今後は個別最適化を目指し、目標を児童・生徒の将来の社会的自立を目指す方向に変えていくとのことでもあったので、量的変動とは違う評価指標が次年度以降には盛り込まれることも期待できよう。
- ② オーギュメントド・リアリティー。実世界から得られる知覚情報に、コンピューターで情報を補足したり、センサーによる情報を加えて強調したりする技術の総称。専用のゴーグルや機器などを通して見た現実の風景に、電子情報を重ね合わせて表示するもの。拡張現実感、強調現実とも。現実世界と仮想世界(バーチャル・リアリティー)を合わせることから、複合現実(ミクスト・リアリティー)ともいう。
- ③ 「Society5.0とは」、内閣府Webサイト  
([https://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/](https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/); 最終閲覧日2020年10月16日)

### 三浦 巧也 委員(東京農工大学 准教授)

#### 【学校教育】

- ・ 小学校では新学習指導要領が始まり、特別な配慮が必要な児童に対して、個々の特性に合わせた学習指導が通常学級でも期待されています。特別な配慮が必要な児童・生徒の特性を踏まえた学習のあり方について研修等で研鑽することや、特別支援教室・学級の教諭との協働がより図られることが望ましいと述べさせていただきました。教育委員会より、保護者会等で、「個別最適化」を目指し、認知や行動面での成長を促す取り組みについて伺いました。ICT等を活用して、児童・生徒の個性が発揮されることを願います。

- ・ 家庭学習について、まずは基本的な調査が必要であると述べさせていただきました。調査結果に基づいて、家庭学習を保護者と共に取り組む姿勢が大事であると指摘いたしました。教育委員会からは、家庭学習で大事なことは、児童・生徒が自ら学ぶ仕組みを作ることだと言いました。保護者は、塾に行かせて満足しているケースが多いそうです。児童・生徒の学習に向かう動機を高め、どのように自ら課題を設定し取り組む力を養うのかが今後の課題であると思われます。
- ・ いじめや不登校への支援の現状について、評価の説明欄にスクールソーシャルワーカー（SSW）の取り組みの記載がないことを指摘しました。また、適応指導教室や民間施設との連携についても記載がないことを指摘しました。教育委員会より、不登校対策については、SSWの家庭訪問や医師による支援等、幅広く取り組んでいることを伺いました。また、民間施設との連携については、学校側から施設に積極的に働きかけていることや、児童・生徒個々の現状に合わせた対応を行っている実情を伺いました。そして、今後は、新型コロナウイルスの影響によるいじめが生じないように、人権教育にも力を入れていきたいという意見も伺いました。

#### 【生涯学習】

- ・ 子どもの居場所づくりについて、小学校では充実しているが、中学校での取り組みが積極的ではないことを指摘しました。教育委員会より、中学校では2校（一中、緑中）では放課後カフェや補習の取り組みがなされているが、今後の拡充は予定していないと伺いました。しかしながら、小学校においてはコミュニティ・スクール（緑小）が展開され、様々な取り組みがなされることを伺いました。今後は、児童・生徒の「個別最適化」を促す取り組みとして、放課後の居場所が家庭学習と連動し、よりよい子どもたちの暮らしと学びの機会が提供されることを期待します。

# 参考資料

## 1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）

（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

**第二十六条** 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

**2** 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 小金井市教育委員会の事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の実施に関する要綱（平成 21 年 10 月 28 日制定）

（目的）

**第 1 条** この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 27 条第 1 項の規定に基づき、小金井市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価（以下「点検及び評価」という。）を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図ることを目的とする。

（実施方法）

**第 2 条** 点検及び評価は、小金井市教育委員会の基本方針に基づく主要な施策（毎年度策定）を対象とする。

**2** 点検及び評価は、前年度の施策及び事業の進ちよく状況を総括するとともに、課題や今後の取組の方向性を示すものとし、毎年度 1 回実施する。

**3** 教育委員会は、前年度の施策及び事業の進ちよく状況等を取りまとめ、次条の点検及び評価に関する有識者の意見を聴取した上で、点検及び評価を行うものとする。

（点検及び評価に関する有識者）

**第 3 条** 教育委員会は、点検及び評価を行うに当たり、教育に関して学識経験を有する者の知見の活用を図るため、点検及び評価に関する有識者（以下「有識者」という。）を置く。

**2** 有識者の定数は、3 人以内とする。

**3** 有識者は、教育に関して学識を有する者の中から、教育委員会が委嘱する。

4	有識者の任期は、3年とする。ただし、再任を妨げない。
5	有識者に欠員が生じた場合の補欠者の任期は、前任者の残任期間とする。 (議会報告及び公表)
第4条	教育委員会は、点検及び評価に関する報告書を作成して小金井市議会へ提出するとともに、公表するものとする。 (庶務)
第5条	点検及び評価の実施に関する庶務は、学校教育部庶務課において行う。 付 則 (施行期日)
1	この要綱は、平成20年10月28日から施行する。 (経過措置)
2	平成20年度に実施する点検及び評価に限り、第2条第1項中「小金井市教育委員会の基本方針に基づく主要な施策(毎年度策定)」とあるのは、「小金井市教育委員会の基本方針に基づく学校教育の指導目標、社会教育の目標」とする。

### 3 令和元年度教育委員会運営状況

#### (1) 会議

定例会 12回

#### (2) 教育長及び委員

委員名	任 期	備 考
大熊 雅士	自 30. 10. 1 至 3. 9. 30	教育長(30. 4. 1就任)
鮎川 志津子	自 28. 12. 1 至 2. 11. 30	教育長職務代理者
福元 弘和	自 30. 4. 1 至 4. 3. 31	
岡村 理栄子	自 30. 4. 1 至 4. 3. 31	
浅野 智彦	自 29. 7. 11 至 3. 7. 10	

(3) 定例会の審議事項

会議名 年月日	審議事項
第4回 定例会 31.4.15	<p>代処第6号 小金井市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則に関する代理処理について</p> <p>代処第7号 小金井市教育委員会教育長事務決裁及び専決規程の一部を改正する規程に関する代理処理について</p> <p>代処第8号 小金井市公民館企画実行委員の解嘱に関する代理処理について</p> <p>選第1号 小金井市長期計画審議会委員の推薦について</p> <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成31年第1回小金井市議会定例会について</li> <li>2 平成31年度学級編制について</li> <li>3 寄附の収受について</li> <li>4 小・中学校教育管理職及び教員の異動について</li> <li>5 教育課程の届出報告について</li> <li>6 その他</li> <li>7 今後の日程</li> </ol>
第5回 定例会 元.5.14	<p>代処第9号 小金井市公民館企画実行委員の委嘱に関する代理処理について</p> <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和2年度使用小学校教科用図書採択について</li> <li>2 中学校合唱鑑賞教室について</li> <li>3 その他</li> <li>4 今後の日程</li> </ol>
第6回 定例会 元.5.28	<p>代処第10号 小金井市公民館企画実行委員の委嘱に関する代理処理について</p> <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 小学校オーケストラ鑑賞教室について</li> <li>2 平成30年度小金井市立小・中学校の不登校児童・生徒数について</li> <li>3 その他</li> <li>4 今後の日程</li> </ol> <p>議案第6号 職員の人事上の措置について</p>
第7回 定例会 元.7.9	<p>代処第12号 小金井市立小金井第一小学校、小金井市立東小学校及び小金井市立東中学校校医の解嘱に関する代理処理について</p> <p>代処第13号 小金井市立小金井第一小学校、小金井市立東小学校及び小金井市立東中学校校医の委嘱に関する代理処理について</p> <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校施設の長寿命化計画策定の庁内体制について</li> </ol>

	<p>代処第11号</p> <p>代処第14号</p>	<p>2 令和2年度使用小学校教科用図書の採択について</p> <p>3 海の移動教室について</p> <p>4 その他</p> <p>5 今後の日程</p> <p>職員の退職に関する代理処理について</p> <p>職員の分限処分に関する代理処理について</p>
<p>第8回 定例会 元.7.30</p>	<p>議案第7号 報告事項</p> <p>議案第8号</p>	<p>令和2年度使用小学校教科用図書の採択について</p> <p>1 その他</p> <p>2 今後の日程</p> <p>職員の人事異動について</p>
<p>第9回 定例会 元.8.27</p>	<p>議案第9号</p> <p>議案第10号</p> <p>議案第11号</p> <p>議案第12号</p> <p>議案第13号</p> <p>協議第2号</p> <p>選第2号 報告事項</p>	<p>令和元年度小金井市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について</p> <p>令和2年度小金井市立中学校使用教科用図書の採択について</p> <p>令和2年度小金井市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書の採択について</p> <p>小金井市社会教育委員の委嘱について</p> <p>小金井市公民館運営審議会委員の委嘱について</p> <p>小金井市公民館中長期計画策定に係る中間報告について</p> <p>小金井市奨学資金運営委員会委員の推薦について</p> <p>1 令和元年第2回小金井市議会定例会について</p> <p>2 いじめ防止条例検討委員会について</p> <p>3 小学校6年生の林間学校について</p> <p>4 小金井市総合体育館及び栗山公園健康運動センターの長期修繕計画について</p> <p>5 その他</p> <p>6 今後の日程</p>
<p>第10回 定例会 元.10.7</p>	<p>代処第15号</p> <p>代処第16号</p> <p>議案第14号</p> <p>協議第3号</p> <p>報告事項</p>	<p>小金井市公民館企画実行委員の解嘱に関する代理処理について</p> <p>小金井市公民館運営審議会委員の委嘱に関する代理処理について</p> <p>小金井市図書館協議会委員の委嘱について</p> <p>教育委員会教育目標の改定について</p> <p>1 中学校第2学年の山の移動教室について</p> <p>2 小金井市貫井北センター事業運営委託（図書館）及び小金井市東センター事業運営委託（図書館）に係る評価報告書について</p> <p>3 小金井市貫井北センター事業運営委託（公民館）</p>

	代処第17号 代処第18号 代処第19号 代処第20号	及び小金井市東センター事業運営委託（公民館）に係る評価報告書について 4 その他 5 今後の日程 職員の退職に関する代理処理について 職員の人事異動に関する代理処理について 職員の人事異動に関する代理処理について 職員の分限処分に関する代理処理について
第11回 定例会 元.10.29	選第3号 協議第4号 協議第5号 報告事項  代処第21号 代処第22号	小金井市奨学資金運営委員会委員の推薦について 教育委員会教育目標の改定について 教育に関する事務に係る予算に対する意見について 1 令和元年第3回小金井市議会定例会について 2 令和2年度新入学児童・生徒について 3 令和元年度結核対策委員会の開催結果について 4 「青少年のための科学の祭典」東京大会in小金井について 5 その他 6 今後の日程 職員の人事異動に関する代理処理について 職員の退職に関する代理処理について
第12回 定例会 元.12.10	代処第23号 議案第15号 報告事項	教育委員会事業場安全衛生委員会委員の任命に関する代理処理について 小金井市教育委員会の教育目標について 1 令和元年第4回小金井市議会定例会について 2 小学校連合音楽会について 3 令和元年度成人の日記念行事について 4 その他 5 今後の日程
第1回 定例会 2.1.14	代処第3号 議案第1号  元議案第15号 議案第2号 報告事項	小金井市公民館運営審議会委員の委嘱に関する代理処理について 教科書の採択方法に関する請願書 令和元年議案第15号小金井市教育委員会の教育目標についての訂正 小金井市教育委員会の教育目標について 小金井市教育委員会の基本方針及び令和2年度教育施策について 1 東京2020オリンピック聖火リレーについて 2 その他 3 今後の日程

	代 処 第 1 号 代 処 第 2 号	職員の分限処分に関する代理処理について 職員の分限処分に関する代理処理について
第 2 回 定 例 会 2.2.17	議 案 第 1 号 議 案 第 3 号 議 案 第 4 号 議 案 第 5 号 協 議 第 1 号 協 議 第 2 号 報 告 事 項 代 処 第 3 号 代 処 第 4 号 代 処 第 5 号 代 処 第 6 号 代 処 第 7 号 代 処 第 8 号 議 案 第 6 号	教科書の採択方法に関する請願書 小金井市立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則 小金井市学校運営協議会に関する規則 小金井市総合体育館及び小金井市栗山公園健康運動センターの指定管理者の指定に関する議案の提出依頼について 小金井市教育相談所、もくせい教室の今後の在り方について 成年年齢引き下げに伴う成人の日記念行事について 1 令和元年度小金井市小・中学校連合作品展について 2 第11回中学校「東京駅伝」大会について 3 令和元年度「小金井教育の日」について 4 令和元年度小金井市教育委員会児童・生徒表彰について 5 働き方改革キャンペーンについて 6 東京2020オリンピック競技大会のボランティア募集について 7 その他 8 今後の日程 職員の人事異動に関する代理処理について 職員の退職に関する代理処理について 職員の分限処分に関する代理処理について 職員の分限処分に関する代理処理について 職員の人事上の措置に関する代理処理について 職員の人事異動に関する代理処理について 校長・副校長の任命（転任・新任）に係る内申について
第 3 回 定 例 会 2.3.27	議 案 第 7 号 議 案 第 8 号 議 案 第 9 号 議 案 第 10 号 議 案 第 11 号 議 案 第 12 号	小金井市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則 小金井市教育委員会事務専決規則の一部を改正する規則 小金井市教育委員会職員の休日、休暇等に関する規程の一部を改正する規程 小金井市立東小学校学校薬剤師の解嘱について 小金井市立東小学校学校薬剤師の委嘱について 令和2年度緑小学校学校運営協議会の設置について

議案第13号	小金井市立中学校部活動指導員配置規則
議案第14号	小金井市学校事務共同実施に関する規則
議案第15号	学校職員の兼業等及び教育公務員の教育に関する兼職等に関する事務取扱規程の一部を改正する規程
議案第16号	小金井市公立学校職員出勤簿整理規程の一部を改正する規程
議案第17号	小金井市公立学校職員服務規程の一部を改正する規程
議案第18号	小金井市立学校事案決定規程の一部を改正する規程
議案第19号	小金井市公民館処務規程の一部を改正する規程
議案第20号	小金井市公民館条例施行規則の一部を改正する規則
報告事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 新型コロナウイルスの対応について</li> <li>2 令和元年度働き方改革のまとめ及び令和2年度働き方改革の計画について</li> <li>3 地域学校協働活動について</li> <li>4 その他</li> <li>5 今後の日程</li> <li>6 令和2年度小金井市立学校長・副校長等の人事異動について</li> </ol>
代処第9号	職員の分限処分に関する代理処理について
代処第10号	職員の分限処分に関する代理処理について
代処第11号	職員の分限処分に関する代理処理について
代処第12号	職員の併任に関する代理処理について
議案第21号	職員の人事異動について

#### 4 令和元年度 小金井市立小・中学校 学校行事・連合行事等日程表

番号	行事等	一小	二小	三小	四小	東小	前原小	本町小	緑小	南小	一中	二中	東中	緑中	南中	
1	海の移動教室(小5年)	5/22(水)	5/27(月)	5/29(水)	6/3(月)	6/5(水)	6/10(月)	5/13(月)	5/15(水)	5/20(月)						
		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓						
2	林間学校(小6年)	5/24(金)	5/29(水)	5/31(金)	6/5(水)	6/7(金)	6/12(水)	5/15(水)	5/17(金)	5/22(水)						
		7/30(火)	7/28(日)	8/7(水)	8/3(土)	8/5(月)	7/24(水)	7/22(月)	8/1(木)	7/26(金)						
3	山の移動教室(中2年)	8/1(木)	7/30(火)	8/9(金)	8/5(月)	8/7(水)	7/26(金)	7/24(水)	8/3(土)	7/28(日)	9/11(水)	6/26(水)	9/16(月)	9/18(水)	10/2(水)	
		↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
4	修学旅行(中3年)										9/13(金)	6/28(金)	9/18(水)	9/20(金)	10/4(金)	
											9/4(水)	9/22(日)	9/27(金)	9/12(木)	9/15(日)	
5	特別支援学級移動教室	梅の実6/6(木)~6/7(金)・さくら10/17(木)~10/18(金)・ひまわり10/17(木)~10/18(金)									G組 5/15(水)~5/17(金)・6組 5/15(水)~17(金)					
6	小学校オーケストラ鑑賞教室	5/17(金) (武蔵野市民文化会館)														
7	中学校合唱鑑賞教室										5/10(金) (武蔵野市民文化会館)					
8	連合音楽会	10/25(金) (小金井 宮地楽器ホール)														
9	連合作品展	1/24(金)~1/28(火) (小金井 宮地楽器ホール)														
10	小金井教育の日	2/5(水) (小金井 宮地楽器ホール)														
11	始業式・入学式	始業式・入学式4/8(月)									始業式4/8(月) 入学式4/9(火)					
12	修了式	修了式3/24(火)									修了式3/25(水)					
13	卒業式	卒業式3/25(水)									卒業式3/19(木)					
14	周年行事					11/1(金)										
15	研究発表会	2/14(金)														
16	体育的行事	運動会	運動会	運動会	運動会	運動会	運動会	運動会	運動会	運動会	運動会	運動会	運動会	運動会	体育会	体育大会
		10/5(土)	9/28(土)	10/5(土)	9/28(土)	9/28(土)	10/5(土)	10/5(土)	10/5(土)	10/5(土)	10/5(土)	6/1(土)	6/1(土)	6/1(土)	6/1(土)	5/25(土)
17	文化的行事	展覧会	展覧会	音楽会	学習発表会	学芸会	けやき祭	学芸会	みどりの発表会	学習発表会	ふじがね祭	音楽祭	合唱コンクール	文化発表会	合唱コンクール	
		11/15(金)	11/15(金)	11/15(金)	11/14(木)	11/29(金)	11/15(金)	11/15(金)	11/15(金)	11/15(金)	11/15(金)	10/28(月)	10/30(水)	10/19(土)	10/15(火)	10/23(水)
		11/16(土)	11/16(土)	11/16(土)	11/15(金)	11/30(土)	11/16(土)	11/16(土)	11/16(土)	11/16(土)	11/16(土)				10/16(水)	
			11/16(土)													



小金井市教育委員会の権限に属する事務の  
管理及び執行の状況の点検及び評価報告書

令和2年11月発行

編集・発行 小金井市教育委員会

小金井市教育委員会事務局

小金井市前原町三丁目41番15号

☎ 042-387-9872